

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 ICT と情報モラル		講師名(敬称略) 畠山 美穂 (非常勤講師)	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
1 年次・後期	3 0 時間／ 1 単位／ 1 5 回		講義 ・ 演習
授業概要 (目的)	情報科学の基礎知識とその応用について学び、ICT を活用するための基礎的能力を養う。		
目標	1. 情報社会と情報通信技術(ICT)について理解する。 2. 保健医療における情報の「いかし方」について具体的に学ぶ。 3. 情報を扱ううえで患者を中心とした「まもり方」としての情報倫理について学ぶ。 4. コンピュータの基本的な操作技術を学ぶ。		
授業内容	教育内容		教育方法
	1. 情報と情報社会：情報の定義と特徴 2. 情報と情報社会：社会と情報 3. 保健医療における情報：保健医療と情報 4. 保健医療における情報：看護と情報 5. 保健医療における情報：医療における情報システム 6. 情報と倫理：情報倫理と医療 7. 情報と倫理：患者の権利と情報 8. 情報と倫理：個人情報の保護 9. 情報と倫理：コンピュータリテラシーとセキュリティ 10. 情報処理：既存の情報の収集方法 11. 情報処理：質問紙調査によるデータ収集 12. 情報処理：Excel による統計解析 13. 情報処理：文字情報の整理 14. 情報の発表とコミュニケーション 15. 試験・まとめ		講義 演習
成績評価の方法 演習課題提出と試験による総合評価とする。		テキスト・参考書 系統看護学講座／別巻／看護情報学 (医学書院)	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 論理的思考と表現法		講師名(敬称略) 藤井 知弘(非常勤講師)	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
1 年次・前期	3 0 時間／ 1 単位／ 1 5 回		講義 ・ 演習
授業概要 (目的)	論理的思考の基礎を学び論理的に考え表現する能力を身につける。 論説文の解釈・読解力・要旨をまとめ発表する力を養う。		
目標	論理的思考を学び、論理的な文章表現ができる。		
授業内容	教育内容		教育方法
	1. 本講義と活動内容について 学ぶことの意味 思考力と表現力の関連 2. スピーチ構成にみるエピソードと中心の関連 職業・看護について① 看護師を目指すことの記述構想 3. 職業・看護について② 仕事の意味を再考・記述構想 4. 職業・看護について③ VTR 視聴 原点を見つめ考える 5. 命の授業から① ブレーンストーミング 6. 命の授業から② VTR 視聴 解釈・記述 7. 命の授業から③ VTR 山田泉「いのちの授業」解釈・記述 8. 命の授業から④ 安楽死について考える 9. 命の授業から⑤ 意見文の記述・要約 10. レポート・論文の書き方① 11. レポート・論文の書き方② 12. レポート・論文の書き方③ 13. レポート・論文の書き方④ 14. レポート・論文の書き方⑤ 15. レポート発表		講義 演習
成績評価の方法 課題・取り組み姿勢 等による総合評価		テキスト・参考書 講師配付資料	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 看護人間工学		講師名（敬称略） 佐々木 和彦（非常勤講師）	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
1 年次・後期	1 5 時間／ 1 単位／ 8 回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	安全・安楽な看護技術の提供を学ぶ基礎として、看護と関連深い物理現象や実際に使用する機器類を想定し、介助技術と方法について理解する。		
目標	1. 看護に関連する自然現象の理解を介して科学的な見方と考え方を身につける。 2. 力学的原理によりボディメカニクスの基本事項を理解する。 3. 気体・液体(流体)の圧力に関わる原理、光と音波に関わる原理と応用例を学ぶ。		
授業内容	教育内容	教育方法	
	1. 重いものを持つにはどうしたらよいか （力のモーメント、てこの原理の人体への応用） 2. 看護ボディメカニクスの物理 （体の移動、体位変換とボディメカニクス） 3. 身近な圧力 （力と圧力、圧力と体積、気圧と水圧） 4. 呼吸器と吸引の物理 （呼吸と陰圧、吸引、サイフォン） 5. 点滴静脈内注射の物理 （点滴と液体の落下速度、流体の性質） 6. 循環器の物理 （血液循環と血管抵抗、血圧と血圧計） 7. 感覚器の物理 （光と視覚、音波と聴覚、感覚の対数表示） 8. 試験	講義	
成績評価の方法 筆記試験より評価する		テキスト・参考書 看護学生のための物理学／第 6 版（医学書院）	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 教育学		講師名（敬称略） 藤井 知弘（非常勤講師）	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
1 年次・後期	3 0 時間／ 1 単位／ 1 5 回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	教育学全般の基礎的素養を学ぶとともに、人々が健康に対しセルフケア能力を高めるための教育的な役割について理解する。		
目標	1. 教育学に関する基礎的な知識を学び、教育の意義を理解する。 2. 人間にとって学習する必要性を理解する。 3. 現代の教育に求められている新たな課題について学ぶ。		
授業内容	教育内容		教育方法
	1. 社会の中の看護と教育 2. 教育とはなにか、「教育」の概念 3. 教育の対象、子ども観と発達 4. 社会変動と教育 5. 教育の組織化、学校 6. 教育をなりたたせるもの 教授、訓育、養護 7. 教育をなりたたせるもの 発達 8. 教育の場としての学校と家庭 9. 教育の目標と評価 10. 教育のメディア、専門性と専門職性 11. 教育の場をつくるしくみ 12. キャリア教育、ジェンダーとセクシュアリティ 13. 特別ニーズ教育、インクルーシブ教育 14. 生涯学習、シティズンシップ教育 15. 試験・まとめ		講義
成績評価の方法 試験、レポートによる総合評価とする。		テキスト・参考書 看護のための教育学 第2版（医学書院）	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 倫理学		講師名（敬称略） 宇佐美 公生（非常勤講師）	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
1 年次・前期	1 5 時間／ 1 単位／ 8 回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	医療現場では、日々様々な倫理的問題に直面する。倫理学の理論、学説、方法論の基礎を学び、倫理に基づいた判断の素養を養う。		
目標	1. 倫理学の基礎と様々な理論・学説を理解する。 2. 様々な倫理的諸問題について自ら倫理学的観点から考えることができる。		
授業内容	教育内容		教育方法
	1. 倫理学とは何か―哲学の一分野としての倫理学 道徳の起源と倫理学の対象―倫理学史から 2. 正義と愛―公正さと個体への関心 宗教の中の倫理―ユダヤ教からキリスト教へ 3. キリスト教の歴史―生命観、宗教改革 宗教批判と生の哲学 4. 科学の発達と現代の倫理学的視点 5. 倫理的諸問題① 6. 倫理的諸問題② 7. 倫理的諸問題③ 8. まとめ		講義と意見交換
成績評価の方法 授業中の小レポートと最終レポートによる 総合評価		テキスト・参考書 講師作成資料	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 生活と社会		講師名（敬称略） 佐藤 雅子（非常勤講師）
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類
1 年次・前期	1 5 時間／1 単位／8 回	講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	社会学の理論及び方法に関する基礎的な知識を理解し、社会的な視点から現代社会のコミュニティの現状をとらえ、地域医療に貢献する方策を体得する。	
目標	1. 社会学の基本的なものの見方・概念を理解する。 2. 社会調査の技法、及びその実際を習得し、経験値とする。	
授業内容	教育内容	教育方法・留意点
	1. コミュニティと地域 地域とは何か コミュニティとは何か 現代コミュニティの特性 2～5. 保健医療とコミュニティ 社会調査の技法 「地域を知る」という視点で 1) 地域に住む人から見た医療・介護・福祉とはどうあればいいのか 2) 地域のコミュニティはどうあればいいのか 6～7. 現代のコミュニティと医療 地域で健康を維持するための医療とは格差と健康 8. 試験	講義 GW 演習 発表
成績評価の方法 試験、レポート、グループワークに取り組む姿勢、及び出席率による総合評価とする。		テキスト・参考書 講師作成資料 系統看護学講座／基礎分野／社会学（医学書院）

基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 家族と社会		講師名（敬称略） 菊池 裕生（非常勤講師）
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類
1 年次・後期	1 5 時間／1 単位／8 回	講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	現代社会の特徴を理解し、多様な家族、性・ジェンダーへの理解を深める。保健医療の中での家族の課題、男女共同参画社会の形成に向けた取り組みを理解する。	
目標	1. 人と社会の関係、現代社会の特徴について理解する。 2. 家族の変化にともなう多様性と課題を理解する。 3. 性・ジェンダー多様化する性を理解し差別のない社会を考える。	
授業内容	教育内容	教育方法・留意点
	1. 第1回 社会学のものの見方 2～4. 第2回 ジェンダーとは何か？ 5～7. 第3回 カゾクとは何か？ 8. 試験	講義 グループワーク 演習
成績評価の方法 試験、レポート、グループワークに取り組む姿勢、及び出席率による総合評価とする。		参考書テキスト・参考書 講師作成資料 系統看護学講座／基礎分野／社会学（医学書院） 系統看護学講座／基礎分野／家族看護学（医学書院）

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 心理学		講師名（敬称略） 織田 信男（非常勤講師）	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
1 年次・前期	30 時間／1 単位／15 回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	心理学の基礎的な知識を学ぶことを通して、人間の心理や行動の基礎にある原理を学び、自己理解、他者理解を深める手がかりを得るとともに、さらに広くその家族や職場での人間関係理解に発展できるようにする。		
目標	1. 心理学の基本的知識を理解する。 2. 患者と家族の心理状態を理解し良好な人間関係を築くことができる。 3. 心理学を学ぶことにより自己を理解する。		
授業内容	教育内容		教育方法
	1. 心理学とは 2. 感覚と知覚 3. 記憶 4. 学習 5. 感情・動機づけ 6. 性格の理論 7. 性格の測定 8. 社会的認知 9. 発達 10. 心の適応 11. 心理療法 1 12. 心理臨床 2 13. 心理臨床 3 14. 医療・看護と心理 15. 試験・まとめ		講義 講義 演習 講義 演習 講義 演習 講義 演習 講義 演習 講義 演習 講義 演習 講義 演習 講義 演習 講義 演習 講義 演習 講義 演習 講義
成績評価の方法 試験、レポートによる総合評価とする。		テキスト・参考書 系統看護学講座／基礎分野／心理学（医学書院）	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 人間関係論		講師名（敬称略） 鈴木 護（非常勤講師）	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
1 年次・後期	3 0 時間／ 1 単位／ 1 5 回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	看護は、援助を必要とする人々と提供する専門職との人間関係の上に成り立つ。看護 場面で生じる人間関係への洞察力を高め、よりよい患者・家族―援助者関係を築く能 力の基礎となる理論と、その活用について学ぶ。		
目標	1. 人間関係を成立する上で必要な理論やコミュニケーションについて理解する。 2. 看護の場面で、患者や家族へ活用できる基本技術を身につける。 3. カウンセリング理論の基本と技術を学ぶ。		
授業内容	教育内容		教育方法
	1. 人間関係論とは 2. 対人関係と役割 3. 態度と対人行動 4. 集団と個人 5. コミュニケーションのありかた① 6. コミュニケーションのありかた② 7. アサーティブコミュニケーション 8. カウンセリングの理論 9. カウンセリングに関する理論 10. コーチング 11. 看護における人間関係① 患者を支える人間関係 12. 看護における人間関係② 家族を含めた人間関係 13. 看護における人間関係③ 保健医療チームの人間 関係 14. 看護における人間関係④ 地域をつくる人間関係 15. 試験・まとめ		講義 演習
成績評価の方法 試験、レポートによる総合評価とする。		テキスト・参考書 系統看護学講座／基礎分野／人間関係論（医学 書院）	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 生物学		講師名（敬称略） 梶原 昌五（非常勤講師）
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類
1 年次・前期	30 時間／1 単位／15 回	講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	生物の基本単位である細胞に共通の基本構造と機能を学び、生体に起こる様々な生命現象を個体レベル、細胞レベル等色々な角度から観察、理解するための基礎をつくる。	
目標	1. 細胞の基本的な構造と機能や、発生における分化のしくみを理解する。 2. 生物の体の構造と機能が地球環境や遺伝子の変化により進化したことを理解する。 3. 健康と寿命・病気などを視野に、生物としてのヒトについて学ぶ。	
授業内容	教育内容	教育方法
	1. 看護の基礎としての生物学 2. 生命とは何か。ウイルスは生物か 3. 細胞の構造と機能 4. 細胞内外の物質輸送、代謝、酵素のはたらき 5. 生命維持のためのエネルギーの基本通貨 ATP 6. 細胞の増殖（体細胞分裂）、胚葉形成、誘導、形態形成、iPS 細胞と再生医療 7. メンデルの法則、染色体と遺伝子、がん化、老化 8. さまざまな遺伝現象、遺伝子治療 9. 遺伝情報とその伝達・発現のしくみ（セントラルドグマ） 10. 生殖と発生（減数分裂、受精、無脊椎動物の発生、脊椎動物の発生、昆虫の発生、前後軸、背腹軸の形成） 11. 個体の調節（恒常性の維持、神経系、内分泌系） 12. 刺激の受容と行動 1（動物の視覚） 13. 刺激の受容と行動 2（動物の嗅覚、味覚、聴覚、触覚） 14. 生命と地球（進化をもたらす遺伝子と環境の変化） 15. 試験・まとめ	講義
成績評価の方法 試験、レポート等による総合評価		テキスト・参考書 系統看護学講座／基礎分野／生物学（医学書院）

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 英語 I		講師名（敬称略） 梶田 シャニン（非常勤講師）	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
1 年次・後期	3 0 時間／ 1 単位／ 1 5 回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	看護師に求められる基本的な医学英語の習得を目指し、英語を理解するために必要な読解力・聴解力を身につけるため、基本的な文法及び医学関連の基本を学ぶ		
目標	1. 日常の診療や看護における基礎的な英会話が習得できる。 2. 英語を通して、異文化の風習・社会習慣を広く理解する。		
授業内容	教育内容		教育方法
	1. 導入 2. UNIT 1 Please speak more slowly. 3. UNIT 2 Where are you from? 4. UNIT 3 Could you tell me your address, Please? 5. UNIT 4 What department do you want to Visit? 6. UNIT 5 Where is the X-ray department ? 7. UNIT 6 What are your symptoms? 8. UNIT 7 Where does it hurt? 9. UNIT 8 Have you ever had any serious illnesses? 10. UNIT 9 Take one tablet, four times a day. 11. UNIT 10 Let me make an appointment for Your test 12. UNIT 11 Your surgery will be tomorrow at 9 a.m. 13. UNIT 12 How are you feeling today? 14. まとめ・試験（1 時間） 15. 解説・振り返り		講義 6. Test(UNIT 1~4) 10. Test(UNIT 5~8) 14. Test(UNIT 9~12)
成績評価の方法 試験により評価		テキスト・参考書 クリスティーンのやさしい看護英会話第 2 版 （医学書院）／知念クリスティーン 上瀧真紀恵	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野Ⅰ	専門分野Ⅱ	統合分野
科目名 英語Ⅱ			講師名(敬称略) ハレヤマ ジェームス フランシスカス (非常勤講師)	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類
3 年次・前期		1 5 時間／ 1 単位／ 8 回		講義 ・ 演習
授業概要 (目的)	看護場面における日常的な英会話を学ぶ。看護関連の英単語を習得する。			
目標	1. 患者の看護に必要な医療・看護に関する語彙を理解する。 2. 医療・看護場面における日常英会話を理解する。 3. 英語で異文化の風習・社会習慣などを理解する。			
授業内容	教育内容			教育方法・留意点
	1. UNIT 1 Please speak more slowly. UNIT 2 Where are you from? 2. UNIT 3 Could you tell me your address, Please? 3. UNIT 4 What department do you want to Visit? UNIT 5 Where is the X-ray department ? 4. UNIT 6 What are your symptoms? UNIT 7 Where does it hurt? 5. UNIT 8 Have you ever had any serious illnesses? UNIT 9 Take one tablet, four times a day. 6. UNIT 10 Let me make an appointment for your test UNIT 11 Your surgery will be tomorrow at 9 a.m. 7. UNIT 12 How are you feeling today? 8. 試験 (1 h)			一斉講義・演習
成績評価の方法 試験により評価する。			テキスト・参考書 クリスティーンのやさしい看護英会話 (医学書院) ／ 知念クリスティーン 上瀧真紀恵	

基礎分野		専門基礎分野		専門分野	
科目名 岩手を知る			講師名 (敬称略)	1	槇 健志 (専任教員)
				2	水本 千恵子 (非常勤講師)
				3	酒井 美喜子 (専任教員)
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類	
1 年次・前期		1 5 時間／ 1 単位／ 8 回		講義 ・ 演習	
授業概要 (目的)		自分たちの住んでいる地域・生活する人々について様々な視点から学ぶ。 岩手県で学ぶ自覚と誇りを養うとともに、岩手県に暮らす人々を尊重する態度や 資質を育む。			
目標		1. 岩手県の地域や伝統・文化の価値を理解し、実生活との関わりを理解する 2. 岩手県の伝統や文化を他人に発信できる資質や能力を養う 3. 岩手県の良さを再認識し、岩手県を愛し誇りに感じる人材の育成につなげる			
担当講師		教育内容		教育方法・留意点	
1		1. 導入 岩手について知ることの意義 出生地について調べよう 2～3. 岩手を大切にしようとする段階 資料館、施設を実際に訪れてみる 4. 発表会 (評価含む)		講義 グループワーク 施設見学	
2		5～6. 岩手に親しもうとする段階 岩手の再発見ーなぜ地域社会なのか 各地域のかかえる課題と解決への取り組み (村おこし・まちづくり)			
3		7～8. 岩手をよりよくしようとする段階 岩手の医療・福祉・社会資源について考える			
成績評価の方法 発表、レポートにより評価する。 (講師 1：60 点、講師 2：20 点、講師 3：20 点)				テキスト・参考書 講師作成資料	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野			
科目名 こころとからだの癒しⅠ		講師名 (敬称略)	1	木村 直弘（非常勤講師）	
			2	吉村 晶子（非常勤講師）	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類	
1 年次・前期		1 5 時間／ 1 単位／ 8 回		講義 ・ 演習	
授業概要 (目的)	癒しが人のこころやからだに与える影響について学ぶ				
目標	1．音楽のもつ癒しの効果について理解する 2．歌うという音楽実践を通して癒しを与えることを学ぶ				
担当講師	教育内容		教育方法	テキスト・参考書	
1	1～2．音楽療法の実際 3．音楽療法の現場で用いられる音楽		講義 演習	講師作成資料	
2	1～4．声楽作品の歌唱 (唱歌、童謡、ナイチンゲール讃歌含む)		講義 演習	講師作成資料	
	8．試験				
成績評価 の方法	試験、授業態度による総合評価とする。 （講師 1：50 点、講師 2：50 点） 試験は全講師の講義終了後、同一日に実施する。				

基礎分野	専門基礎分野	専門分野		
科目名 こころとからだの癒しⅡ		講師名 (敬称略)	1	槇 健志 (専任教員)
			2	田沢 光正 (非常勤講師)
			3	今野 利明 (非常勤講師)
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類
1 年次・後期		1 5 時間／ 1 単位／ 8 回		講義 ・ 演習
授業概要 (目的)	癒しが人のこころやからだに与える影響について学ぶ			
目標	リラクセーションの実際について理解できる			
担当講師	教育内容			教育方法
1	1. 癒しとは ストレスとリラクセーション			講義 演習
2	2～5. こころと体を癒す技法の 1 つであるヨーガについて 理論を学び体験する 2. 「心・体・魂」を一体と捉える医学 ＝全体医学(ホリスティック医学)と癒しを知る 3. ヨーガ＝心のコントロールの技法を知る(ヨーガの経典から) 4. ポーズ・呼吸法・読誦の実践の継続により梵我一如を体験する 5. 実践の継続により、目標到達までの副産物である美容・健康・ 才能の開発が得られる			講義・演習 毎回、ヨーガ(ポーズ・呼吸法・読誦) を実践する。実践によりこころとからだの癒しが得られることを体感する。
3	6. 私たちの考えるこころとからだの癒し			講義・演習
1	7～8. 私たちの考えるこころとからだの癒し (試験含む)			グループワーク 発表
成績評価の方法 授業態度と課題・試験による総合評価 (講師 1 : 35 点、講師 2 : 50 点、講師 3 : 15 点)			2～5 回目の留意点 ・身体を動かしやすい服装とする ・大きめのバスタオル 1 枚を準備する ・身体の柔軟性を気にする必要はない	
テキスト・参考書 講師作成資料				

[illegible]

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 生理学		講師名（敬称略） 高島 浩一郎（非常勤講師）	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
1 年次・前期 後期	4 5 時間／2 単位／2 3 回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	臨床医学を理解する基礎となる、生命の構造がどのように働くのかという「機能」について、体系的に学ぶ		
目標	1．人が生きているしくみのあらましを理解する。 2．人が生きるのに都合良い状態を保つしくみのあらましを理解する。 3．人が動いているしくみのあらましを理解する。		
授業内容	教育内容	教育方法	
	1～2．生理学とは、階層性、細胞、膜、細胞と個体、植物と動物、調節と運動、遺伝のしくみ 3～4．消化器系：栄養、酵素、消化と吸収の働き、肝臓などの働き 5～6．呼吸器系：内呼吸と循環の役割、体内での気体の動き、外呼吸のしくみ 7～8．血液：組成、赤血球の働き、白血球、血漿、血液凝固、血液型の働き 9～10．循環器系：心臓の興奮と収縮、心電図、血圧、血流、循環の調節 11．泌尿器系：腎臓、体液の調節 12～13．自律神経系：内臓機能などの調節 14～15．内分泌系：ホルモンと脳、種類 16．筋系：筋収縮のしくみ、種類 17～18．神経系：神経細胞、神経系のあらまし、中枢神経の働き、高次機能、運動司令を伝える経路 19～20．感覚器系：種類、感覚情報を伝える経路、視覚のしくみ、聴覚のしくみ、他の感覚のしくみ 21．免疫系：防御のしくみ 22．体温調節のしくみ、生殖機能、成長・老化のしくみ 23．試験	講義 （一部、他の方法も使う。） 	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野		
科目名 からだのしくみと生活		講師名 (敬称略)	1	中山 裕子 (専任教員)
			2	似内 三奈子 (専任教員)
			3	岡本 法子 (専任教員)
			4	菊池 美香 (専任教員)
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類
1 年次・前期		1 5 時間／ 1 単位／ 8 回		講義 ・ 演習
授業概要 (目的)	人体の構造と機能の知識を生活者としての人間にあてはめ、どのようなからだの構造と機能を使って日常生活を営んでいるのかを理解する。			
目標	1. 人体の構造と機能を日常生活の視点から理解する 2. 対象者に必要な日常生活援助について考えられる			
担当講師	教育内容			教育方法
1	1. からだの知識 何のための生活行動か 恒常性維持のための物流の流通 恒常性維持のための調節機構			講義
3	2. 日常生活行動 ①お風呂に入る			
1	3. 日常生活行動 ②話す・聞く			
3	4. 日常生活行動 ③動く・眠る			
4	5. 日常生活行動 ④食べる			
2	6. 日常生活行動 ⑤トイレに行く			
2	7. 日常生活行動 ⑥息をする			
	8. 試験			
成績評価の方法 試験により評価する (講師 1 : 30 点、講師 2 : 28 点、講師 3 : 28 点、 講師 4 : 14 点、) 試験は全講師の講義終了後、同一日に実施する。			テキスト・参考書 系統看護学講座／専門基礎分野／人体の構造と機能(1) 解剖生理学 (医学書院) 系統看護学講座／解剖生理学ワークブック (医学書院) 看護形態機能学 生活行動からみるからだ (日本看護協会出版会)	

原本

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 からだのしくみと生活		講師名	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
1 年次・前期	1 5 時間／ 1 単位／ 8 回		講義 ・ 演習
授業概要 (目的)	人体の構造と機能の知識を生活者としての人間にあてはめ、どのようなからだの構造と機能を使って日常生活を営んでいるのかを理解する。		
目標	1. 人体の構造と機能を日常生活の視点から理解する 2. 対象者に必要な日常生活援助について考えられる		
授業内容	教育内容		教育方法
	1. 「食べる」食欲・食行動、咀嚼・飲み込む 2. 「食べる」消化・吸収 3. 「食べる」便を作る・便を出す 4. 「内部環境の恒常性」水分バランス・循環 5. 「循環」心臓・血圧 6. 「呼吸」息を吸う吐く・ガス交換 7. 「防衛機構」食作用と免疫・血液凝固 8. 試験		講義
成績評価の方法 試験により評価する		テキスト・参考書 講師作成資料 系統看護学講座／専門基礎分野／人体の構造と機能 (1) 解剖生理学 (医学書院) 系統看護学講座／解剖生理学ワークブック (医学書院)	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野 I			
科目名 栄養代謝学		講師名 (敬称略)	1	森 真貴子 (非常勤講師)	
			2	俵 万里子 (非常勤講師)	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類	
1 年・後期		3 0 時間／ 1 単位／ 1 5 回		講義 ・ 演習	
授業概要 (目的)	基本的な生命維持の機構について学ぶ。看護職として活動するうえで必要な健康の維持・増進のための栄養学の基本的な知識について学ぶ。				
目標	1. 生命を保持する生体構成物質や生体内の物質代謝について理解する。 2. 食事と健康の関連について理解する。 3. 臨床栄養の基礎的知識を理解する。				
担当講師	教育内容		教育方法		テキスト・参考書
1	1. 生体の成り立ちと構成物質 2. 糖質の性質と代謝 3. たんぱく質の性質と代謝 4. 脂質の性質と代謝 5. 核酸と代謝 遺伝 6. 酵素、ビタミンと補酵素 7. ホルモン		講義		系統看護学講座／専門基礎分野／人体の構造と機能（2）生化学（医学書院）
2	1. 栄養素の種類とはたらき 2. 日本人の食事摂取基準と栄養アセスメント 3. ライフステージと栄養 4. 臨床栄養 栄養補給法 5. 疾患症状別食事療法の実際 ①糖尿病 6. ②心疾患、腎疾患 7. 健康づくりと食生活		講義 演習 「栄養状態評価」 演習 「栄養指導の実際」		系統看護学講座／専門基礎分野／人体の構造と機能（3）栄養学（医学書院）
	15. 試験・まとめ				
成績評価の方法	試験により評価する。（講師 1：50 点、講師 2：50 点） 試験は全講師の講義終了後、同一日に実施する。				

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 疾病論総論		講師名（敬称略） 柴崎 晶彦（非常勤講師）	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
1 年次・前期	1 5 時間／ 1 単位／ 8 回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	病気の発生の機序と病理的变化の基礎について学ぶ。		
目標	1． 病気の概念やしくみを理解する。 2． 医学や医療のなかで病理学の担う役割を理解する。		
授業内容	教育内容	教育方法	
	1． 病理学で学ぶこと 感染症 2． 循環障害 3． 細胞・組織の障害と修復 4． 炎症と免疫 移植と再生医療 5． 代謝障害 老化と死 6． 先天異常と遺伝子異常 7． 腫瘍 8． 試験	講義	
成績評価の方法 試験により評価する。		テキスト・参考書 系統看護学講座／専門基礎分野／疾病の成り立ちと回復の促進（1）病理学（医学書院）	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野		
科目名 疾病論Ⅰ		講師名 (敬称略)	1	山内 広平（非常勤講師）
			2	大平 篤志（非常勤講師）
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類
1 年次・後期		30 時間／1 単位／15 回		講義 ・ 演習
授業概要 (目的)	呼吸器、循環器、血液・造血器の代表的な疾患の機序と治療法について学ぶ。			
目標	1. 呼吸器疾患の成り立ちと疾病の回復過程、回復に必要な治療を理解する。 2. 循環器疾患の成り立ちと疾病の回復過程、回復に必要な治療を理解する。 3. 血液・造血器疾患の成り立ちと疾病の回復過程、回復に必要な治療を理解する。			
担当講師	教育内容		教育方法	テキスト・参考書
1	1. 呼吸器の症状とその病態生理 2. 検査と治療・処置 3. 疾患の理解 ①感染症 4. 疾患の理解 ②間質性肺疾患 5. 疾患の理解 ③気道疾患 6. 疾患の理解 ④肺血栓塞栓症 呼吸不全 7. 疾患の理解 ⑤肺腫瘍		講義	系統看護学講座／専門分野Ⅱ／成人看護学（2）呼吸器（医学書院）
2	1. 循環器の症状とその病態生理 2. 疾患の理解 ①虚血性心疾患 3. 疾患の理解 ②心不全 4. 疾患の理解 ④弁膜症、心筋疾患 5. 血液・造血器の症候とその病態生理 6. 疾患の理解 ①造血器腫瘍 7. 疾患の理解 ②出血性疾患		講義	系統看護学講座／専門分野Ⅱ／成人看護学（3）循環器（医学書院） 系統看護学講座／専門分野Ⅱ／成人看護学（4）血液・造血器（医学書院）
	15. 試験・まとめ			
成績評価の方法	試験により評価する。（講師 1：50 点、講師 2：50 点） 試験は全講師の講義終了後、同一日に実施する。			

基礎分野	専門基礎分野	専門分野		
科目名 疾病論Ⅱ		講師名 (敬称略)	1・3	及川 寛太 (非常勤講師)
			2	及川 純子 (非常勤講師)
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類
1 年次・後期		30 時間／1 単位／15 回		講義 ・ 演習
授業概要 (目的)	消化器、内分泌系の代表的な疾患の機序と治療法について学ぶ。			
目標	1. 消化器疾患の成り立ちと疾病の回復過程、回復に必要な治療を理解する。 2. 内分泌・代謝疾患の成り立ちと疾病の回復過程、回復に必要な治療を理解する。			
担当講師	教育内容		教育方法	テキスト・参考書
1	1. 消化器の症状とその病態生理 2. 検査と治療 3. 疾患の理解 ①肝臓・胆嚢の疾患 4. 疾患の理解 ②膵臓の疾患		講義	系統看護学講座／ 専門分野Ⅱ／成人看護学（5）消化器（医学書院）
2	1. 疾患の理解 ①食道の疾患 2. 疾患の理解 ②胃・十二指腸疾患 3. 疾患の理解 ③腸・腹膜疾患 4. 疾患の理解 ④急性腹症 ほか		講義	系統看護学講座／ 専門分野Ⅱ／成人看護学（5）消化器（医学書院）
3	1. 内分泌・代謝の症状とその病態生理 2. 検査 3. 疾患の理解 ①糖尿病 4. 疾患の理解 ②脂質異常、肥満、尿酸代謝異常 5. 疾患の理解 ③視床下部一下垂体疾患 6. 疾患の理解 ④甲状腺・副腎疾患⑤内分泌腫瘍		講義	系統看護学講座／ 専門分野Ⅱ／成人看護学（6）内分泌・代謝（医学書院）
	試験			
成績評価の方法	試験により評価する。（講師 1・3：75 点、講師 2：25 点） 試験は全講師の講義終了後、同一日に実施する。			

基礎分野	専門基礎分野	専門分野		
科目名 疾病論Ⅲ		講師名 (敬称略)	1	鈴木 一幸（当校校長）
			2	本宮 宏子（非常勤講師）
			3	臼木 豊（非常勤講師）
			4	大橋 正俊（非常勤講師）
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類
1 年次・後期		3 0 時間／ 1 単位／ 1 5 回		講義 ・ 演習
授業概要 (目的)	感染症、免疫疾患、女性生殖器系の代表的な疾患の機序と治療法について学ぶ。			
目標	1．感染症の成り立ちと疾病の回復過程、回復に必要な治療を理解する。 2．免疫疾患の成り立ちと疾病の回復過程、回復に必要な治療を理解する。 3．生殖系疾患の成り立ちと疾病の回復過程、回復に必要な治療を理解する。			
担当講師	教育内容		教育方法	テキスト・参考書
1	1．感染症の基礎（病態生理） 2．重要な感染症 3．検査と診断 4．治療 5．感染予防（看護も含む）		講義 (講義の最後に 小テスト実施)	系統看護学講座／専門分野Ⅱ／成人看護学（11）アレルギー 膠原病 感染症（医学書院）
2	1．免疫のしくみとアレルギー 検査と治療 2．症状と疾患の理解 気管支喘息 3．自己免疫疾患とその機序 症状とその病態生理 4．疾患と治療の理解 ①関節リウマチ ②SLE		講義	系統看護学講座／専門分野Ⅱ／成人看護学（11）アレルギー 膠原病 感染症（医学書院）
3	1．生殖器疾患の症状とその病態生理 2．診察・検査と治療・処置 3．疾患の理解 ①子宮、卵巣疾患 4．疾患の理解 ②機能的疾患		講義	系統看護学講座／専門分野Ⅱ／成人看護学（9）／女性生殖器（医学書院）
4	1．疾患の理解 乳房疾患		講義	同上
	15. 試験・まとめ			
成績評価の方法	試験により評価する。（講師 1：35 点、講師 2：35 点、講師 3：24 点、講師 4：6 点） 試験は全講師の講義終了後、同一日に実施する。			

基礎分野	専門基礎分野	専門分野			
科目名 疾病論Ⅳ		講師名 (敬称略)	1	關 博文 (非常勤講師)	
			2	桑田 知之 (非常勤講師)	
			3	白石 秀夫 (非常勤講師)	
			4	高橋 俊明 (非常勤講師)	
			5	河嶋 寛 (非常勤講師)	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類	
2 年・前期		3 0 時間／ 1 単位／ 1 5 回		講義 ・ 演習	
授業概要 (目的)	脳神経、骨筋肉系、感覚器系の代表的な疾患の機序と治療法について学ぶ。				
目標	1. 脳神経疾患の成り立ちと疾病の回復過程、回復に必要な治療を理解する。 2. 運動器疾患の成り立ちと疾病の回復過程、回復に必要な治療を理解する。 3. 感覚器疾患の成り立ちと疾病の回復過程、回復に必要な治療を理解する。				
担当講師	教育内容		教育方法		テキスト・参考書
1	1. 脳神経の症状とその病態生理 2. 検査・診断と治療・処置 3. 疾患の理解 ①脳疾患		講義		系統看護学講座／専門分野Ⅱ／成人看護学 (7) 脳・神経 (医学書院)
2	4. 疾患の理解 ②脳神経の変性疾患 5. 疾患の理解 ③神経・筋疾患				
3	1. 運動器 症状とその病態生理 2. 診断・検査と治療・処置 3. 疾患の理解 ①外傷性疾患 4. 疾患の理解 ②非外傷性疾患		講義		系統看護学講座／専門分野Ⅱ／成人看護学 (10) 運動器 (医学書院)
4	1. 疾患の症状・診断・治療の理解① 機能の障害、眼瞼結膜の疾患 2. 疾患の症状・診断・治療の理解② 角膜、網膜、硝子体、水晶体の疾患		講義		系統看護学講座／専門分野Ⅱ／成人看護学 (13) 眼 (医学書院)
5	1. 疾患の症状・診断・治療の理解① 耳疾患、鼻疾患 2. 疾患の症状・診断・治療の理解② 鼻疾患 3. 疾患の症状・診断・治療の理解③ 咽喉頭疾患		講義		系統看護学講座／専門分野Ⅱ／成人看護学 (14) 耳鼻咽喉 (医学書院)
	15. 試験・まとめ				
成績評価の方法	試験により評価する。 (講師 1 : 20 点、講師 2 : 15 点、講師 3 : 30 点、講師 4 : 15 点、講師 5 : 20 点) 試験は全講師の講義終了後、同一日に実施する。				

基礎分野		専門基礎分野		専門分野			
科目名 疾病論Ⅴ				講師名 (敬称略)	1	赤坂 俊太郎（非常勤講師）	
					2	佐藤 俊樹（非常勤講師）	
					3	大友 さつき（非常勤講師）	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数			授業の種類		
2 年次・前期		3 0 時間／ 1 単位／ 1 5 回			講義 ・ 演習		
授業概要 (目的)		腎泌尿器系、皮膚、口腔の代表的な疾患の機序と治療法について学ぶ。					
目標		1．腎泌尿器疾患の成り立ちと疾病の回復過程、回復に必要な治療を理解する。 2．皮膚疾患の成り立ちと疾病の回復過程、回復に必要な治療を理解する。 3．口腔疾患の成り立ちと疾病の回復過程、回復に必要な治療を理解する。					
1		教育内容		教育方法	テキスト・参考書		
		1．腎泌尿器疾患の症状とその病態生理 2．検査と治療・処置 3．疾患の理解① 腎不全、 4．疾患の理解② ネフローゼ、糸球体腎炎 5．疾患の理解③ 全身性疾患による腎障害 6．疾患の理解④ 尿路障害、尿路・性器の腫瘍		講義	系統看護学講座／ 専門分野Ⅱ／成人看護学（8）腎・泌尿器（医学書院）		
2		1．皮膚の症状とその病態生理 2．検査と治療・処置 3．疾患の理解① 表在性皮膚疾患、物理化学的障害 4．疾患の理解② 腫瘍および色素異常症、皮膚の感染症		講義	系統看護学講座／ 専門分野Ⅱ／成人看護学（12）皮膚（医学書院）		
3		1．歯・口腔の症状とその病態生理 2．検査と治療・処置 3．疾患の理解① 歯の異常と疾患 4．疾患の理解② 口腔領域の炎症・腫瘍		講義	系統看護学講座／ 専門分野Ⅱ／成人看護学（15）歯・口腔（医学書院）		
		15. 試験・まとめ					
成績評価の方法		試験により評価する。（講師 1：40 点、講師 2：30 点、講師 3：30 点） 試験は全講師の講義終了後、同一日に実施する。					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野		
科目名 診断治療学		講師名 (敬称略)	1	角原 久夫（非常勤講師）
			2	松尾 鉄平（非常勤講師）
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類
2 年次・前期		3 0 時間／ 1 単位／ 1 5 回		講義 ・ 演習
授業概要 (目的)	代表的な治療法を学び、生体への影響について理解する。			
目標	1．放射線による診断と治療の概要を理解する。 2．麻酔、手術療法の概要を理解する。 3．化学療法の概要を理解する。			
担当講師	教育内容		教育方法	テキスト・参考書
1	1．医療における放射線医学の役割 2．画像診断 X線、CT、MRI、超音波 3．核医学検査 IVR 4．放射線治療総論 5．放射線治療の実際①がんの治療 6．放射線治療の実際②有害事象の対策 7．放射線障害と防護		講義	系統看護学講座／別巻／臨床放射線医学（医学書院） 系統看護学講座／別巻／がん看護学（医学書院）
2	1．外科医療の基礎 2．外科治療を要する疾患・症状 3．外科治療を支える分野 4．外科的治療の実際 5．化学療法の流れ 6．薬物の種類と特徴、治療計画 7．化学療法の実際		講義	系統看護学講座／別巻／臨床外科看護総論（医学書院） 系統看護学講座／別巻／がん看護学（医学書院）
	15. 試験・まとめ			
成績評価の方法	試験により評価する。（講師 1：50 点、講師 2：50 点） 試験は全講師の講義終了後、同一日に実施する。			

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名	薬理学		
	講師名（敬称略） 高田 智美（非常勤講師）		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
1 年次・後期	3 0 時間／ 1 単位／ 1 5 回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	薬物の作用機序を中心に臨床で必要とされる薬理学の基礎的知識を習得する。		
目標	1. 基本的薬物の薬理作用とその適応・副作用を理解する。 2. 薬物の治療効果を高め、安全な与薬管理・服薬指導をするうえでの留意点を理解する。		
授業内容	教育内容		教育方法
	1. 薬物の使用目的 看護師の役割 2. 薬理作用 薬物動態 3. 薬物相互作用 薬物使用の有益性と危険性 薬と法律 4. 抗感染症薬 消毒薬 5. 免疫治療薬 抗アレルギー薬・抗炎症薬 6. 自律神経系作用薬 筋弛緩薬 局所麻酔薬 7. 全身麻酔薬 催眠薬 抗不安薬 抗精神病薬 8. 抗うつ薬 パーキンソン症候群 抗てんかん薬 麻薬性鎮痛薬 9. 抗高血圧薬 狭心症治療薬 心不全治療薬 抗不整脈薬 10. 利尿薬 高脂血症治療薬 抗貧血薬 止血薬と抗凝血薬 11. 抗がん薬 血液悪性腫瘍治療薬 12. 呼吸器系、消化器系に作用する薬物 漢方薬 13. 生殖器、泌尿器系に作用する薬物 ホルモン拮抗薬 14. 皮膚科用薬・眼科用薬 救急時使用薬 15. 試験・まとめ		講義 演習 「与量計算（単位・濃度・粉末・輸液）」 演習 「服薬指導の実際」
成績評価の方法 試験により評価する。		テキスト・参考書 ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進② 臨床薬理学 （メディカ出版）	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 感染症と微生物学	講師名（敬称略） 佐々木 実（非常勤講師）	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類
1 年次・前期	3 0 時間／ 1 単位／ 1 5 回	講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	感染及び異物に対する生体反応、感染症を引き起こす微生物の性質及び治療法について学ぶ。	
目標	1. 微生物の性質、常在細菌の役割、病原微生物（細菌、真菌、原虫、およびウイルス）の病原性について学ぶ。 2. 感染に対する生体の反応と防御機能（自然免疫・獲得免疫）について理解する。 3. 病原微生物によっておこる感染症について学ぶ。	
授業内容	教育内容	教育方法
	1. 微生物学の歴史、微生物の性質 2. 病原性、常在細菌の役割、日和見感染症 3. 自然免疫、炎症免疫 4. 獲得免疫、ワクチン 5. 感染症の細菌学的診断法、滅菌と消毒 6. 化学療法、感染症法 7. グラム陽性球菌、グラム陰性球菌 8. 好気性桿菌、腸内細菌科 1 9. 腸内細菌科 2、グラム陽性桿菌 1 10. 結核菌、嫌気性菌、スピロヘータ、マイコプラズマ 11. リケッチア、クラミジア、真菌 1 12. 真菌 2、原虫 13. ウイルスの性質、DNA ウイルス 14. RNA ウイルス 15. 試験・まとめ	講義
成績評価の方法 試験により評価する。	テキスト・参考書 系統看護学講座／専門基礎／疾病の成り立ちと回復の促進（4）微生物学（医学書院）	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野			
科目名 リハビリテーション総論		講師名 (敬称略)	1	佐々木 透 (非常勤講師)	
			2	高橋 和大 (非常勤講師)	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類	
1 年次・後期		1 5 時間／1 単位／8 回		講義 ・ 演習	
授業概要 (目的)	リハビリテーションの概念を学び、アプローチの方法を理解する。リハビリテーションチームの特徴と看護の役割を理解する。				
目標	1. リハビリテーションや障害の概念を理解する。 2. 関連制度とリハビリテーション医療提供システムについて理解する。 3. リハビリテーションチームの特徴を理解し、看護師の役割について考える。				
担当講師	教育内容			教育方法	テキスト・参考書
1	1. リハビリテーション総論 リハビリテーション看護の概要 2. リハビリテーション看護の対象 リハビリテーション看護に関連する法制度			講義	系統看護学講座 ／別巻／リハビリテーション看護 (医学書院)
2	1. ステージ別リハビリテーション看護 リハビリテーション看護を展開するための基盤 2. 生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 ①運動機能障害 ②摂食嚥下障害 3. 生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 ③排泄機能障害 ④呼吸機能障害・ ⑤言語障害 4. 生活者としての対象を支えるリハビリテーション看護 ⑥高次機能障害 ⑦性機能障害 ⑧視覚障害 ⑨聴覚障害 5. これからのリハビリテーション看護			講義	
	8. 試験・まとめ				
成績評価の方法	試験により評価する (講師 1 : 30 点、講師 2 : 70 点) 試験は全講師の講義終了後、同一日に実施する。				

基礎分野	専門基礎分野	専門分野		
科目名 公衆衛生と健康支援		講師名	1	田沢 光正（非常勤講師）
			2	酒井 美喜子（専任教員）
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類
3 年次・前期		4 5 時間／ 2 単位／ 2 3 回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	公衆衛生の意義と重要性とともに、健康水準の現況について理解し、疾病の予防や健康増進のための方策を学ぶ。			
目標	1. 公衆衛生の概念と歴史を学び、現在の保健活動を理解する。 2. 健康社会実現に向けて、公衆衛生および保健活動の進め方について学ぶ。 3. 環境と健康の関連性について理解する。			
担当講師	教育内容		教育方法	テキスト・参考書
1	1. 公衆衛生とは 2. 公衆衛生の歴史 3. 公衆衛生の活動対象 4. 公衆衛生のしくみ —政策展開、国と地方自体の役割— 5. 公衆衛生のしくみ —専門職のはたらき、住民との協働— 6. 環境と健康 7. 国際保健 8. 集団の健康をとらえるための手法・疫学 9. 地域保健 —母子保健活動— 10. 地域保健 —成人保健活動— 11. 地域保健 —高齢者保健活動と課題— 12. 地域保健 —精神保健・歯科保健・感染症対策— 13. 学校と健康、職場と健康 14. 健康危機管理・災害保健 15. 試験、まとめ		講義	系統看護学講座／ 専門基礎分野／健康支援と社会保障制度②公衆衛生（医学書院） 国民衛生の動向（厚生統計協会） 講師作成資料
2	16. 生活環境施設見学ガイダンス（事前学習） 17～20. 生活環境施設見学 （岩手県環境保健研究センター 他） 21～22. 生活環境施設見学後のまとめ 23. 公衆衛生の現状と課題（1 h）		演習 生活環境施設見学 演習	系統看護学講座／ 専門基礎分野／健康支援と社会保障制度②公衆衛生（医学書院） 国民衛生の動向（厚生統計協会） 講師作成資料
成績評価の方法	試験、課題による総合評価とする。（講師 1：70 点、講師 2：30 点）			

基礎分野	専門基礎分野	専門分野 I	
科目名	社会保障と制度		講師名 本宮 宏子（非常勤講師）
年次・開講時期	授業回数		授業の種類
3 年次・前期	1 5 時間／1 単位／ 8 回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	国民の生活や健康を守る保健医療福祉行政の仕組みや法制度について学ぶ。		
目標	1．人間の社会的側面と社会保障の理念について基本的な制度を学ぶ。 2．生活の問題に関する法律について理解する 3．看護に必要な社会福祉と社会保障の基礎的知識を理解する。		
授業内容	教育内容	教育方法	
	1．社会保障制度と社会福祉の法制度 社会保障制度 2．現代社会の変化と動向 3．医療保障 医療保障制度、健康保険、高齢者医療制度 4．医療保障 保険診療のしくみ 5．介護保障 介護保険制度 6．所得保障 所得保障制度、年金保険制度、社会手当、 労働保険制度 7．公的扶助 貧困・低所得問題と公的扶助制度、 生活保護制度、低所得者対策、近年の動向 8．試験	講義	
成績評価の方法 試験により評価する。		テキスト・参考書 系統看護学講座／専門基礎分野／健康支援と社会保障制度③社会保障・社会福祉（医学書院） 国民衛生の動向（厚生統計協会）	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名	社会福祉活動		講師名 佐藤 雅子（非常勤講師）
年次・開講時期	授業回数		授業の種類
3 年次・前期	1 5 時間／ 1 単位／ 8 回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	生活者の生活問題に関する社会福祉の実践を学ぶ。		
目標	1. 地域で暮らす人々の生活問題に関する法律について理解する 2. 保健・医療・福祉の課題について看護の視点で理解する		
授業内容	教育内容	教育方法	
	1. 社会保障制度と社会福祉の法制度 社会福祉の法制度 2. 社会福祉の分野とサービス 高齢者福祉 3. 社会福祉の分野とサービス 障害福祉、児童家庭福祉 4. 社会福祉実践と医療、看護 ケースワーク 5. 社会福祉実践と医療、看護 医療、看護、福祉との連携 6. 社会福祉実践と医療、看護 連携場面と事例紹介 7. 社会福祉の歴史 8. 試験	講義	
成績評価の方法 試験により評価する。		テキスト・参考書 系統看護学講座／専門基礎分野／健康支援と社会保障制度③社会保障・社会福祉（医学書院） 国民衛生の動向（厚生統計協会）	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 看護関係法令		講師名 佐藤 なを子（非常勤講師）	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
3 年次・前期	1 5 時間／ 1 単位／ 8 回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	保健師助産師看護師法を中心に看護に関連する法律を学び、看護職の法的責任について理解する。また、医療事故防止の観点から関連法規についても学習する。		
目標	1．法律で規定されている看護職の業務や責任について学ぶ。 2．看護の専門職業人としての社会的役割を学ぶ。 3．人々の健康を守るためのサービス提供機関および従事者の役割に関わる法律について学ぶ。		
授業内容	教育内容	教育方法	
	1．法の概念 法の概念、厚生労働行政のしくみ 2～4．看護に関する法律 保健師助産師看護師法 看護師等の人材確保の促進に関する法律 医療・看護過誤 5．医療に関する法律 医療関係資格に関する法律 6．医療を支える法律 7．看護職と関係法 労働基準法と社会基盤 8．試験	講義	
成績評価の方法 試験により評価する。		テキスト・参考書 系統看護学講座／専門基礎分野／健康支援と 社会保障制度④／看護関係法令（医学書院）	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 看護と倫理		講師名 吉田 美智子 (専任教員)	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
2 年次・前期	1 5 時間／ 1 単位／ 8 回		講義 ・ 演習
授業概要 (目的)	生命倫理の基本的な知識について学ぶとともに、現代医療が抱えている倫理的諸問題について考察を深め、命に関わる職業である看護者としての自己の倫理観を養う。		
目標	1. 倫理学、生命倫理学の基礎について学ぶ。 2. 看護倫理について理解し、実践に応用関連するものとして理解する。 3. 現代医療と倫理的問題から、看護者としての自己の倫理観を学ぶ。		
授業内容	教育内容	教育方法	
	1. 看護倫理とはなにか 2. 専門職の倫理 3. 倫理的問題へのアプローチ 4. 看護研究の倫理 5～6. 事例分析 7. 事例検討 8. 試験	講義	
成績評価の方法 試験、レポート等による総合評価とする。		テキスト・参考書 系統看護学講座／別巻／看護倫理（医学書院） 看護職の基本的責務 2021 年版（日本看護協会出版会）	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野			
科目名 総合医療論		講師名 (敬称略)	1	鈴木 一幸 (当校校長)	
			2	河嶋 寛 (非常勤講師)	
			3	關 博文 (非常勤講師)	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類	
3 年次・前期		1 5 時間／1 単位／8 回		講義 ・ 演習	
授業概要 (目的)	保健・医療の現場で問われている課題について様々な視点から学ぶとともに多職種との協働の中での看護職としての役割を理解する				
目標	1. 医療と看護の原点を学び、医療が果たす役割と課題について学ぶ。 2. 生活者が必要としている医療サービスと保健・医療・福祉の役割と課題について学ぶ。 3. チーム医療における看護職の役割について理解する。				
担当講師	教育内容			教育方法	
1	1. 序章 医療コミュニケーションの原点にさかのぼる 第1章 医療と看護の原点―病と癒し			講義	
3	2. 第2章 医療の歩みと医療観の変遷				
2	3. 第3章 私たちの生活と医療				
1	4. 第4章 科学技術の進歩と現代医療の最前線				
3	5. 第5章 現代医療の新たな課題 6. 第6章 医療を見つめ直す新しい視点				
2	7. 第7章 保健・医療・介護・福祉の近未来像				
	試験				
成績評価 の方法	試験、課題による総合評価とする。(講師1：30点、講師2：30点、講師3：40点)		テキスト・参考書 系統看護学講座 専門基礎分野／健康支援と社会保障制度①／総合医療論 (医学書院)		

シラバス

MCL 盛岡医療大学校

看護		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 看護学概論			講師名 及川 千香子（専任教員）		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
1 年次・前期		3 0 時間／ 1 単位／ 1 5 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 （目的）	人間の健康と看護、看護の対象、看護活動・方法、看護職者の役割、歴史等看護の基礎的な知識について学ぶとともに、看護への関心を高める。				
目標	1．看護の基本となる概念を理解する。 2．看護活動の場、保健医療福祉の連携について学び、看護の役割と機能を理解する。 3．看護における倫理の基礎的な考え方を理解する。				
授業内容	教育内容			教育方法・留意点	
	1．看護の本質① 看護とは 看護の変遷 2．看護の本質② 看護の定義、現代の動向と今後の展望 3．看護の役割と機能 ケア、看護の役割・機能の拡大、看護の継続性 4．看護の対象の理解① 人間のこころとからだ 5．看護の対象の理解② 発達の側面、環境との関連、生活の理解 6．健康とは① 健康の概念 環境との関連 7．健康とは② 統計的理解 健康指標 8．看護の提供者 職業としての看護 養成制度とキャリア開発 9．看護における倫理① 職業倫理としての看護倫理 10．看護における倫理② 倫理規定 11．看護の提供のしくみ① 看護の提供の場 12．看護の提供のしくみ② 看護制度 政策 13．看護の提供のしくみ③ 看護管理 医療安全 14．広がる看護の活動領域 国際看護 災害看護 15．試験・まとめ			講義	
成績評価の方法 試験により評価する。			テキスト・教材・参考書 系統看護学講座／専門分野Ⅰ／基礎看護学（Ⅰ） 看護学概論（医学書院）		
担当教員の実務経験の有無： 無・有（ 医師 ・ 看護師 ・ その他 ）					

シラバス

MCL 盛岡医療大学校

看護		学科	基礎分野		専門基礎分野	専門分野
科目名 看護基礎理論			講師名	1	八重樫 秀美（非常勤講師）	
				2	岡本 法子（専任教員）	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数			教育方法	
1 年次・前期		1 5 時間／ 1 単位／ 8 回			講義・実技・実習・演習	
授業概要 （目的）	看護活動の基礎的な理論とその背景展開方法について学ぶ。					
目標	1. 看護理論の変遷を学び、看護の理論と実践のつながりが理解できる。 2. 看護理論の特徴とその活用について理解できる。 3. 看護の基礎となっている理論を理解し、看護実践にどのようにいかすか考える。					
授業内容	講師	教育内容				教育方法・留意点
	1	1. 看護理論の基本的知識 看護理論とは 看護理論の種類 中範囲理論 2. 看護理論を実践に活かす 実践に活かす意義 看護理論の理解 看護理論を活用するステップ 看護理論の歴史と動向 3. 看護理論家とその業績①				講義
	2	4. 看護理論家とその業績② 5. 看護理論の理解と実践への応用① フローレンス・ナイチンゲール 6. 看護理論の理解と実践への応用② フローレンス・ナイチンゲール				講義 グループワーク
	1	7. 看護理論の理解と実践への応用③（発表） フローレンス・ナイチンゲール				グループワーク
		8. 試験				
成績評価の方法 試験、レポートによる総合評価とする。 （講師 1：60 点 講師 2：40 点） 全講師の講義終了後、同一日に試験を実施する。			テキスト・教材・参考書 看護学テキスト／看護理論 看護理論 21 の理解と 実践への応用／南江堂 看護覚え書（現代社） 看護の基本となるもの（日本看護協会出版会）			
担当教員の実務経験の有無 ： 無・有（ 医師 ・ 看護師 ・ その他 ）						

シラバス

MCL 盛岡医療大学校

看護		学科	基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 看護基本技術Ⅰ			講師名	吉田 美智子（専任教員）	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		教育方法	
1 年次・前期		1 5 時間／ 1 単位／ 8 回		講義・実技・実習・演習	
授業概要 （目的）	看護実践を行うために共通する知識、技術について学ぶ。（コミュニケーション、学習支援）				
目標	1．看護における技術の考え方を理解する。 2．看護における対象とのコミュニケーションの基礎を理解する。 3．看護における学習支援について理解する				
授業内容	教育内容			教育方法・留意点	
	1．看護技術とは 看護技術の特徴、看護技術を実践する要素 2．コミュニケーション（1） コミュニケーションの意義と目的 構成要素と成立過程 3．コミュニケーション（2） 関係構築のためのコミュニケーションの基本 4．コミュニケーション（3） 効果的なコミュニケーションの実践 5．コミュニケーション（4） 傾聴の技術、情報収集・説明の技術 アサーティブネス 6．コミュニケーション（5） コミュニケーション障害への対応 7．学習支援 学習者の対象者と看護師の役割 学習の基礎知識・学習支援の基礎知識 学習支援の技術・学習支援の実践 8．試験			講義 演習 「プロセスレコード」 演習 「コミュニケーション技術」 講義	
成績評価の方法 試験、レポートによる総合評価とする。） 全講師の講義終了後、同一日に試験を実施する。			テキスト・教材・参考書 系統看護学講座／専門分野Ⅰ／基礎看護学（2） 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）		
担当教員の実務経験の有無： 無・有（医師・看護師・その他） 助産師（ ）					

醫師

シラバス

MCL 盛岡医療大学校

看護		学科	基礎分野		専門基礎分野	専門分野
科目名 看護基本技術Ⅲ			講師名	1	伊藤 嘉子（専任教員）	
				2	及川 千香子（専任教員）	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数			教育方法	
1 年次・前期		30 時間／1 単位／15 回			講義・実技・実習・演習	
授業概要 （目的）	看護実践を行うために共通する知識・技術について学ぶ（感染予防・記録・情報保護）					
目標	1. 感染防止のための標準予防策を正しく実施できる 2. 看護記録の目的と留意点、その構成について理解する					
授業内容	講師	教育内容				教育方法・留意点
	1	1. 感染防止の基礎知識 2. 標準予防策（スタンダードプリコーション） 3. 感染経路別予防策 4. 洗浄・消毒・滅菌、無菌操作 感染性廃棄物の取り扱い 5～7. 演習「感染予防」				講義 演習 「スタンダードプリコーション」「手袋の装着」「ガウンテクニック」「無菌操作」
	2	8. 看護記録① 看護記録とは 記載・管理における留意点 9. 看護記録② 看護記録の構成 10～13. 演習「看護記録」 14. 看護記録③ 事例を用いた SOAP 法、フローシート				講義 演習 「基礎情報」「SOAP 法」「フローシート」
		15. 試験・まとめ				
成績評価の方法 試験、レポートによる総合評価とする。 （講師 1：50 点 講師 2：50 点） 全講師の講義終了後、同一日に試験を実施する。			テキスト・教材・参考書 系統看護学講座／専門分野Ⅰ／基礎看護学 （2）基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 基礎・臨床看護技術（医学書院） 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 （ヌーヴェルヒロカワ）			
担当教員の実務経験の有無： 無・有（医師・看護師・その他）						

シラバス

MCL 盛岡医療大学校

[illegible]

シラバス

MCL 盛岡医療大学校

看護		学科	基礎分野		専門基礎分野	専門分野
科目名 日常生活援助技術Ⅰ			講師名	1	岡本 法子（専任教員）	
				2	伊藤 嘉子（専任教員）	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数			教育方法	
1 年次・前期		30 時間／1 単位／15 回			講義・実技・実習・演習	
授業概要 （目的）	環境・活動・休息・睡眠・安全の意義を理解し、必要な基本的知識、技術を習得する。					
目標	1. 対象の日常生活援助の必要性を理解する。 2. 科学的根拠に基づいて安全かつ安楽に日常生活援助を実施できる。 3. 活動や休息に関連する症状を示す対象者に必要な看護について理解する。					
授業内容	講師	教育内容		教育方法・留意点		テキスト・参考書
	1	1. 2. 活動・休息援助技術 基本的活動の援助 3. 活動・休息援助技術 睡眠と休息の援助 4. 演習「ボディメカニクス」 「体位変換」 5. 苦痛の緩和・安楽確保の技術 活動・休息に関連する症状を示す対象者への看護 6. 演習「移動・移送」 7. 「安楽な体位の保持」 「関節可動域訓練」		講義 演習 「ボディメカニクス」 「体位変換」 「移動・移送」 「安楽な体位の保持」 「関節可動域訓練」		系統別看護学講座／ 専門分野Ⅰ／基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 系統看護学講座／専門分野Ⅰ／基礎看護学（4）臨床看護総論（医学書院） 基礎・臨床看護技術（医学書院）
	2	1. 環境調整技術 環境調整技術の基礎知識 2. 環境調整技術 援助の実際① 3. 環境調整技術 援助の実際② 4. 演習 「環境整備」 「ベッドメイキング」① 5. 演習 「ベッドメイキング」② 6. 複合演習 「リネン交換」① 7. 複合演習 「リネン交換」②		講義 演習 「環境整備」「ベッドメイキング」「リネン交換」		系統別看護学講座／ 専門分野Ⅰ／基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 基礎・臨床看護技術（医学書院）
		15. 試験・まとめ				
成績評価の方法 試験、レポート、技術試験など総合評価とする。（講師1：50点、講師2：50点） 全講師の講義終了後、同一日に試験を実施する。						
担当教員の実務経験の有無 ： 無（有）（医師 ・ 看護師 ・ その他）						

シラバス

MCL 盛岡医療大学校

看護		学科	基礎分野		専門基礎分野	専門分野
科目名 日常生活援助技術Ⅱ			講師名	1	岡本 法子（専任教員）	
				2	槇 健志（専任教員）	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数			教育方法	
1 年次・前期		30 時間／1 単位／15 回			講義・実技・実習・演習	
授業概要 （目的）		清潔・衣生活の意義を理解し、必要な基本的知識、技術を習得する。				
目標		1. 対象の日常生活援助の必要性を理解する。 2. 科学的根拠に基づいて安全かつ安楽に日常生活援助を実施できる。				
授業内容	講師	教育内容			教育方法・留意点	
	1	1. 清潔・衣生活援助技術 援助の基礎知識 2～3. 清潔・衣生活援助技術 援助の実際 4～5. 演習 「全身清拭」「陰部洗浄」「寝衣交換」 6～7. 演習 「洗髪」「手浴」「足浴」 8. 演習 「口腔ケア」「整容」			講義 演習 「全身清拭」「陰部洗浄」 「寝衣交換」 「洗髪」「手浴」「足浴」 「口腔ケア」「整容」	
	2	9. 髪法 援助の基礎知識 援助の実際 10. 演習「髪法」 11. 身体ケアを通じてもたらされる安楽			「髪法」	
	1	12～14 技術試験「全身清拭」「足浴」				
		15. 試験・まとめ				
成績評価の方法 試験、レポート、技術試験など総合評価とする。 （講師1：70点 講師2：30点） 全講師の講義終了後、同一日に試験を実施する。			テキスト・教材・参考書 系統別看護学講座／専門分野Ⅰ／基礎看護学（3） 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 系統看護学講座／専門分野Ⅰ／基礎看護学（4） 臨床看護総論（医学書院） 基礎・臨床看護技術（医学書院）			
担当教員の実務経験の有無： 無・有（医師・看護師・その他）						

シラバス

MCL 盛岡医療大学校

看護		学科	基礎分野		専門基礎分野	専門分野
科目名 日常生活援助技術Ⅲ			講師名	1	菊池 美香（専任教員）	
				2	似内 三奈子（専任教員）	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数			教育方法	
1 年次・前期		30 時間／1 単位／15 回			講義・実技・実習・演習	
授業概要 （目的）		食事・排泄の意義を理解し、必要な基本的知識、技術を習得する。				
目標		1. 対象の日常生活援助の必要性を理解する。 2. 科学的根拠に基づいて安全かつ安楽に日常生活援助を実施できる。 3. 栄養・代謝、排泄に関連する症状を示す対象者に必要な看護について理解する。				
授業内容		講師	教育内容			教育方法・留意点
		1	1. 食事援助技術 援助の基礎知識 2. 食事援助技術 食事援助の実際 3. 演習 「食事介助」 4. 演習 「経管栄養」 5. 演習 「中心静脈栄養法」 6. 栄養・代謝に関連する症状を示す対象者への看護			講義 演習「食事介助」 「経管栄養」 「中心静脈栄養法」
		2	1. 排泄援助技術 援助の基礎知識 2. 排泄援助技術 援助の実際① 3. 演習①「便器・尿器を用いた排泄援助」「おむつ交換」 4. 排泄援助技術 援助の実際② 5. 演習② 「導尿」「膀胱留置カテーテル」 6. 排泄援助技術 援助の実際③ 7. 演習③ 「浣腸」「排便」 8. 排泄に関連する症状を示す対象者への看護			講義 演習 「便器・尿器を用いた排泄援助」「おむつ交換」 「膀胱留置カテーテル管理」 「導尿」 「浣腸」「排便」
			15. 試験・まとめ			
成績評価の方法 試験、レポート、技術試験など総合評価とする。（講師 1：40 点 講師 2：60 点） 全講師の講義終了後、同一日に試験を実施する。			テキスト・教材・参考書 系統別看護学講座／専門分野Ⅰ／基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 系統看護学講座／専門分野Ⅰ／基礎看護学（4）臨床看護総論（医学書院） 基礎・臨床看護技術（医学書院）			
担当教員の実務経験の有無： 無・有（ 医師 ・ 看護師 ・ その他 助産師 ）						

基礎分野	専門基礎分野	専門分野		
科目名 診療に伴う看護技術Ⅰ		講師名 (敬称略)	1	菊池 美香（専任教員）
			2	今村 栄吏子（専任教員）
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類
1 年次・後期		3 0 時間／1 単位／1 5 回		講義 ・ 演習
授業概要 (目的)	診療の補助と与薬に伴う基本的知識と援助技術を習得する。			
目標	1. 診察介助、検体・生体検査、穿刺・洗浄時の看護の実際を理解する。 2. 身体侵襲を伴う検査・治療をうける対象者への看護について理解する。 3. 薬物、与薬方法に応じた看護援助の実際を理解する。			
担当講師	教育内容		教育方法	テキスト・参考書
1	1. 診察の介助の目的 検体検査・生体検査の概要 2. 検体検査時の看護 3. 採血演習 4. 生体検査時の看護 5. 穿刺時の看護 6. 洗浄時の看護 7. 身体侵襲を伴う検査・治療をうける 対象者への看護		講義 演習 「静脈血採血」 「心電図検査」 「血糖検査」	系統看護学講座／専門分野Ⅰ／基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 系統看護学講座／専門分野Ⅰ／基礎看護学（4）臨床看護総論（医学書院） 基礎・臨床看護技術（医学書院）
2	1. 与薬の基礎知識 2. 与薬方法の基礎知識と援助の実際 3. 注射の基礎知識と援助の実際 4. 注射の演習 ① 5. ② 6. 輸血管理 7. 輸液療法を受ける患者の看護		講義 演習 「皮下注射」「皮内注射」「筋肉内注射」「点滴静脈内注射」「輸液ポンプ」	系統看護学講座／専門分野Ⅰ／基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 系統看護学講座／専門分野Ⅰ／基礎看護学（4）臨床看護総論（医学書院） 基礎・臨床看護技術（医学書院）
	15. 試験・まとめ			
成績評価の方法	試験、レポートによる総合評価とする。（講師 1：50 点、講師 2：50 点） 全講師の講義終了後、同一日に試験を実施する。			

基礎分野	専門基礎分野	専門分野		
科目名 診療に伴う看護技術Ⅱ		講師名 (敬称略)	1	榎 健志（専任教員）
			2	菊池 美香（専任教員）
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類
1 年次・後期		3 0 時間／1 単位／1 5 回		講義 ・ 演習
授業概要 (目的)	救急救命、創傷処置、包帯法の基本的知識・技術の習得と医療機器の原理と実際について学ぶ。また呼吸・循環の意義を理解し必要な基本的知識・技術を習得する。			
目標	1．救急対応の考え方、急変時の対応、心肺蘇生法の基礎知識と一次救命処置の実際が理解できる。 2．創傷治癒のメカニズムを知り、治癒のための看護援助について理解できる。 3．呼吸。循環に関連する症状を示す対象者に必要な看護について理解する			
担当講師	教育内容		教育方法	テキスト・参考書
1	1．救命救急処置の基礎知識 2．心肺蘇生法の基礎知識 3．止血法、院内急変時の対応 4．演習 「一次救命処置の実施」 5．集中治療を受ける対象者への看護 6．演習「生体情報モニタリング」 7．医療機器の原理と実際		講義 演習 「気道確保・人工呼吸」「心臓マッサージ」「AED」 「心電図モニター」	系統看護学講座／専門分野Ⅰ／基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 系統看護学講座／専門分野Ⅰ／基礎看護学（4）臨床看護総論（医学書院） 基礎・臨床看護技術（医学書院）
2	1～2．創傷管理の基礎知識 創傷処置、創傷ケアを受ける対象者への看護 3．呼吸に関連する症状を示す対象者への看護 循環に関連する症状を示す対象者への看護 4～5．呼吸・循環を整える技術 6．演習 「創傷処置」「包帯法」 7．演習「酸素吸入」「吸引」「吸入」		講義 演習「創傷処置」「包帯法」 「酸素吸入」 「吸引」「吸入」	系統看護学講座／専門分野Ⅰ／基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 系統看護学講座／専門分野Ⅰ／基礎看護学（4）臨床看護総論（医学書院） 基礎・臨床看護技術（医学書院）
	15. 試験・まとめ			
成績評価の方法	試験、レポートによる総合評価とする。（講師1：50点、講師2：50点） 全講師の講義終了後、同一日に試験を実施する。			

基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名		
基礎看護学実習		
	年次・開講時期	時間数／単位数
基礎看護学実習Ⅰ	1年次・後期	45時間／1単位
基礎看護学実習Ⅱ	2年次・前期	90時間／2単位
授業概要 (目的)	人間の健康と看護、看護の対象、看護活動・方法、看護職者の役割、歴史等看護の基礎的な知識について学ぶとともに、看護への関心を高める。	
基礎看護学実習Ⅰ 目標	1. 対象者を身体的・精神的・社会的側面から理解できる。 2. 健康障害が日常生活へおよぼす影響について理解できる。 3. 対象者に必要な日常生活援助が理解できる。 4. 接遇の基本を身につけ、対象者に応じたコミュニケーションを図ることができる。 5. 看護の魅力を発見するとともに看護学を学ぶ動機を明確にできる。 6. 基本的な実習態度を身につける。	
基礎看護学実習Ⅱ 目標	1. 対象者を総合的に理解するための情報収集ができ、アセスメントして対象者の全体像を捉えることができる。 2. 対象者の健康上の課題を明確化でき、科学的根拠に基づいた計画を立案できる。 3. 計画に基づき看護を実施し、行った援助を評価・修正できる。 4. 保健・医療・福祉チームの連携の必要性を理解し、その中で看護師の役割について考えることができる。 5. 看護を実践する者として、基本的な実習態度を身につける。	
基礎看護学実習Ⅰ 教育内容	1. 入院患者の観察、インタビュー 2. 健康障害と治療の概要 3. 患者の日常生活の変化について考察 4. 患者に行われている看護（日常生活援助）の把握 5. 日常生活援助の実際を見学して必要性を考察 6. 援助目標を設定、援助計画の立案、患者への説明、日常生活の援助の実際（環境調整、活動、移動の援助、睡眠、休息の援助、食事の援助、排泄の援助、清潔・衣生活の援助） 7. 安全・安楽の確保（感染予防含む） 8. プライバシーの配慮 9. 援助前、援助中、援助後の観察 10. 患者接遇（身だしなみ・挨拶・会釈、自己紹介、落ち着いた言動、適切な言葉遣い、時間を守る、誠実な対応）	

	11. 患者と看護師のかかわりの場面を見学 12. 患者が話しているときの観察（声の調子、視線、表情、態度 など） 13. 患者に合わせた対応、会話（患者のわかる言葉、話すペース、声の大きさ など） 14. プロセスレコードを用いた振り返り 15. 看護活動の実際（実習指導者、担当看護師等の看護活動を見学）
基礎看護学実習Ⅱ 教育内容	1. 情報収集 2. 患者の発達段階と特徴 3. 患者の現在の病態生理・治療・看護 4. 情報の分類、整理（ヘンダーソンの基本的看護の構成要素、主観的情報と客観的情報） 5. 情報の分析 6. 分析に基づき情報同士の関連と関係性を図式化し、問題点を明らかにする 7. 統合、看護問題の明確化 8. 看護問題の抽出（顕在・潜在する問題、問題の記述、優先順位の視点：マズローニード階層） 9. 看護目標の設定、看護計画の立案 10. 援助の実施（患者への説明、計画の実施、安全・安楽の確保、プライバシーの保護、環境調整、必要物品の準備と後始末） 11. 患者の行動・反応の観察 12. 評価 13. 看護要約の作成 14. 看護チームの連携 15. 多職種との連携
成績評価の方法	基礎看護学実習評価表による指導者評価、教員評価の総合評価

基礎分野		専門基礎分野		専門分野	
科目名 地域で生活する人への健康支援			講師名 (敬称略)	1	星 真土香（非常勤講師）
				2	酒井 美喜子（専任教員）
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類	
1 年次・前期		1 5 時間／ 1 単位／ 8 回		講義 ・ 演習	
授業概要 (目的)	対象者の生活の場を理解し、地域で生活する人への健康状態に合わせた健康支援の実際を学ぶ。				
目 標	1．地域で生活する人々の多様性を知り、地域での生活者であることを理解する。 2．地域で生活する人々の健康状態にあわせた、健康支援と予防活動について理解する。				
担当講師	教育内容			教育方法	
1	1．地域を「みる」～紫波町での活動から～ 2．人々が生活する地域を理解する② フィールド学習 3．フィールド学習のまとめ・発表①			講義	
2	4．生活の理解 生活とは、生活と健康の関係、生活のなかで健康をとらえる 5．暮らしの基盤としての地域 地域の定義、地域の特性と理解（わたしの住むまち） 6．人々が生活する地域を理解する① 地域での生活を理解する視点、フィールド学習の準備 7．人々が生活する地域を理解する③ フィールド学習 8．フィールド学習のまとめ・発表②			講義 グループワーク	
成績評価の方法 取り組み姿勢、課題レポートにより評価する。 (講師 1 30 点、講師 2 70 点)				テキスト・参考書 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア (メディカ出版) 基礎からわかる地域・在宅看護論 (照林社) 講師作成資料	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 地域包括ケア論		講師名（敬称略） 酒井 美喜子（専任教員）	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
1 年次・後期	1 5 時間／ 1 単位／ 8 回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	保健・医療・福祉・介護の各職種が連携し、地域住民が住み慣れた地域で安心して尊厳ある生活が継続できるための地域包括ケアシステムの実践について学ぶ。		
目 標	1. 地域包括ケアシステムの概要について理解する。 2. 地域包括ケアを支えるチームについて理解し、看護職の役割について知る。 3. 地域で暮らす認知症やその家族について理解を深めることができる。		
授業内容	教育内容		教育方法
	1. 住み慣れた地域で自分らしい生活とは① 2. 住み慣れた地域で自分らしい生活とは② 3. 課題解決するための社会資源の理解と活用① 4. 課題解決するための社会資源の理解と活用② 5. 地域包括ケアシステムの概要 6. 地域包括支援センターの機能・役割 7. 地域包括ケアにおける認知症高齢者対策 新オレンジプラン、認知症予防サポーター 8. 試験		講義 演習「自分らしい生活」 演習「福祉車両見学・体験」 講義 グループワーク 講義 演習 「認知症サポーター講座」
成績評価の方法 試験、課題レポートにより評価する。		テキスト・参考書 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア（メディカ出版） 基礎からわかる地域・在宅看護論（照林社） 講師作成資料	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 地域・在宅看護概論		講師名 酒井 美喜子（専任教員）	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
2 年次・前期	3 0 時間／ 1 単位／ 1 5 回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	地域・在宅看護の概念を理解し、その位置付けと看護師の役割について学ぶ。また、在宅看護の対象への理解を深めるとともに、在宅療養者を支える法律と制度を理解し在宅ケア体制の現状と今後の課題を学ぶ。		
目 標	1. 在宅看護の特徴と看護師の役割について理解する。 2. 在宅看護を必要とする地域で生活する人とその家族の特徴を理解する。 3. ケアマネジメントについて理解し、個別性に応じた看護を考えることができる。 4. 地域で生活する・療養する人とその家族を支える保健医療福祉についての知識を理解する。		
授業内容	教育内容		教育方法
	1. 地域・在宅看護の概念① ―地域と生活、背景― 2. 地域・在宅看護の概念② ―基盤、基本的理念― 3. 地域・在宅看護の対象者① ―療養者の特徴①― 4. 地域・在宅看護の対象者② ―療養者の特徴②― 5. 地域・在宅看護の対象者③ ―家族支援― 6. 地域・在宅看護の対象者④ ―療養者と家族― 7. 療養の場の移行に伴う看護 8. 在宅看護を支える制度① 介護保険制度 9. 介護保険制度におけるケアマネジメント 10. 11. 在宅看護を支える制度②③ 医療保険制度・後期高齢者医療制度・難病法 生活保護制度・障害者に関連する法律 子どもの在宅療養を支える制度と社会資源 12. 訪問看護の制度、訪問看護ステーション 13. 在宅看護における安全と健康危機管理 14. 在宅訪問時のマナー 15. 試験・まとめ		講義 演習
成績評価の方法 試験・課題レポートにより評価する。		テキスト・参考書 系統看護学講座／統合分野／在宅看護論（医学書院） 専門基礎分野・専門分野 関連テキスト	

基礎分野		専門基礎分野	専門分野	
科目名 地域・在宅看護援助論Ⅰ		講師名 (敬称略)	1	中川 里美 (非常勤講師)
			2	佐藤 佳澄 (非常勤講師)
			3	小田切 宏恵 (非常勤講師)
			4	及川 千香子 (専任教員)
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類
2年次・後期		30時間／1単位／15回		講義 ・ 演習
授業概要 (目的)	地域で生活しながら療養する人々や障害を持ちながら生活する人々とその家族について理解を深めるとともに、在宅での状況別の援助方法の実際について学ぶ。			
目 標	1. 在宅療養するための支援体制や療養者と家族の状況を理解し、援助方法を学ぶ 2. さまざまな疾患や障害に特徴的な看護の展開方法を理解できる。			
担当講師	教育内容		教育方法	テキスト・参考書
1	1. 在宅看護における家族への支援 2. 認知症療養者と家族への在宅看護 3. 長期臥床状態にある療養者への看護 4. 終末期の療養者と家族への在宅看護① 5. 終末期の療養者と家族への在宅看護②		講義 演習	ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア (メディカ出版)
2	1. 難病の療養者と家族への在宅看護① 2. 難病の療養者と家族への在宅看護② 3. 慢性感染症をもつ療養者と家族への在宅看護			ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術 (メディカ出版)
3	1. 障害をもつ療養者と家族への在宅看護① 2. 障害をもつ療養者と家族への在宅看護② 3. 療養者の状態に応じた在宅看護 介護予防、生活リハビリテーション			基礎からわかる地域・在宅看護論 (照林社)
4	1. 精神疾患をもつ療養者と家族への在宅看護 2. 疾病や障害をもつ小児と家族への在宅看護 3. 在宅看護における倫理的課題 生活自立困難、虐待防止、成年後見人			
	15. 試験・まとめ			
成績評価の方法	試験、課題レポートにより評価する。 (講師1：40点、講師2：20点、講師3：20点、講師4：20点)			

基礎分野		専門基礎分野	専門分野	
科目名 地域・在宅看護援助論Ⅱ		講師名 (敬称略)	1	佐藤 美佳子 (非常勤講師)
			2	佐藤 佳澄 (非常勤講師)
			3	小田切 宏恵 (非常勤講師)
			4	酒井 美喜子 (専任教員)
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類
2 年次・後期		3 0 時間／1 単位／1 5 回		講義 ・ 演習
授業概要 (目的)	在宅看護活動に必要な日常生活援助技術及び医療処置援助技術の実践について学ぶ。			
目 標	1. 在宅療養支援に必要な生活ケア・医療的ケア援助技術の概要を理解できる。 2. 既習の看護技術を統合し、在宅療養支援に必要な看護を実践するための知識、技術を習得することができる。 3. 福祉機器を見学、体験し、対象の生活への影響について考えることができる。			
担当講師	教育内容		教育方法	テキスト・参考書
1	1. 生活ケアと医療的ケア コミュニケーション、アセスメント技術 2. 薬物療法、がん外来化学療法 3. 在宅中心静脈栄養法 (HPN)、末梢静脈栄養 (PPN) 疼痛管理 (PCA ポンプ、麻薬)		講義 演習	ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア (メディカ出版)
2	1. 在宅における感染予防 2. 呼吸のアセスメントと援助 排痰ケア、気管カニューレ管理、吸引 3. 在宅酸素療法 (HOT)、在宅人工呼吸療法 (HMV)			ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術 (メディカ出版)
3	1. 食生活のアセスメントと援助 在宅経管栄養法 (HEN). 2. 排泄のアセスメントと援助 自己導尿、ストーマ管理、在宅 CAPD 管理 3. 清潔のアセスメントと援助 褥瘡管理、足病変のケア 4. 家庭にある物品でできる生活援助技術			基礎からわかる地域・ 在宅看護論 (照林社)
4	1. 在宅療養環境と生活リハビリテーション 2. 保持と移動のアセスメントと援助 3. 福祉用具について 4. 福祉用具について 発表・まとめ			
	15. 試験・まとめ			
成績評価の方法	試験、課題レポートにより評価する。 (講師 1 : 20 点、講師 2 : 20 点、講師 3 : 30 点、講師 4 : 30 点)			

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 地域・在宅看護援助論 III		講師名 酒井 美喜子（専任教員）	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
2 年次・後期	1 5 時間／ 1 単位／ 8 回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	様々な事例から、療養者と家族、取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実践を学ぶ		
目 標	1. 看護過程の特徴や方法を理解できる。 2. 事例を用いて在宅看護過程の展開ができる。 3. 療養者と家族をとらえ、アセスメントする視点を身につける。		
授業内容	教育内容	教育方法	
	1. 在宅看護過程の考え方と展開方法 2. 脳血管疾患事例での展開① —情報収集・整理、アセスメント— 3. 脳血管疾患事例での展開② —看護目標・計画、記録— 4. 看護過程の展開①（情報整理・アセスメント） 事例：①COPD ②大腸がん ③認知症 5. 看護過程の展開②（関連図・目標・計画） 事例：①COPD ②大腸がん ③認知症 6～7. 事例①②③まとめ 8. 事例①②③発表	講義 演習「事例展開」 グループワーク	
成績評価の方法 事例(看護過程)、レポートにより評価する。		テキスト・参考書 系統看護学講座／統合分野／在宅看護論（医学書院） 専門基礎分野・専門分野 関連テキスト	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 地域・在宅看護論実習		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数
3年次・前期 後期		90時間／2単位
授業概要 (目的)	疾病や障害を持ちながら地域で生活する療養者とその家族を理解し、様々な生活の場での療養生活を支援するための看護を学ぶ。	
目 標	1. 地域で生活しながら療養する人々への看護を通して、療養者と家族に対する看護の役割を理解できる。 2. 地域で生活している人々の健康管理・予防活動について理解できる。 3. 在宅療養を支援するための社会資源の活用方法や保健・医療・福祉の連携を理解できる。 4. 療養者と家族が地域で療養生活を継続するために必要な援助の根拠を学び、実施できる。	
教育内容	地域包括支援センター 1. 地域包括支援センターの機能と役割 2. 地域の特性と把握 3. 地域における保健・医療・福祉サービス・社会資源の把握、連携からみた看護の継続性 訪問看護ステーション 1. 訪問看護ステーションの機能と役割 2. 在宅療養者を支援する制度と法律 3. 施設内看護、在宅看護の特徴、継続看護の必要性 4. 在宅看護過程 5. 自立支援・自己決定に基づく QOL 向上 6. 社会資源の種類と内容、活用方法 7. 他機関、多職種との連携と看護職の役割 通所リハビリテーション 1. 通所リハビリテーションの機能と概要 2. 対象の特徴を考えたコミュニケーション 3. 通所事業における多職種の役割と看護の役割	
成績評価の方法	地域・在宅看護論実習評価表による指導者評価・教員評価による総合評価	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 成人看護学概論		講師名 岡本 法子（専任教員）	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
1 年次・後期	3 0 時間／1 単位／1 5 回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	成人期にある対象の理解と、成人看護の目的と役割が理解できる。また、成人期の健康に影響を及ぼす因子について理解し、健康の保持、増進や疾病予防のための看護、成人期の保健動向等を概括的に理解する。		
目標	1. 成人の生活と健康問題について理解する。 2. 成人期を対象とした基本的な看護のアプローチについて理解する。 3. 成人の健康レベルに応じた看護について学ぶ。		
授業内容	教育内容		教育方法
	1. 成人と生活 ①対象の理解－大人になること、大人であること 2. ②対象の生活－働いて生活を営むこと 3. 生活と健康 ①成人を取り巻く環境と生活からみた健康 4. ②生活と健康をまもりはぐくむシステム 5. 成人への看護アプローチの基本 ①大人の健康行動、症状マネジメント、医療における人間関係 6. ②看護アプローチ、チームアプローチ、看護におけるマネジメント 7. ③倫理的判断、意思決定支援、家族支援 8. ヘルスプロモーションと看護 9. 健康をおびやかす要因と看護 10. 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護 11. 慢性病とともに生きる人を支える看護 12. 障害がある人の生活とリハビリテーション 13. 人生の最期のときを支える看護 14. さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援、新たな治療法、先端医療と看護 15. 試験・まとめ		講義 グループワーク
成績評価の方法 試験、レポートによる総合評価とする。		テキスト・参考書 系統看護学講座／専門分野Ⅱ／成人看護学 （1）成人看護学総論（医学書院） 国民衛生の動向（厚生統計協会）	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野			
科目名 成人看護学援助論Ⅰ		講師名 (敬称略)	1	佐藤 佳澄 (非常勤講師)	
			2	菊池 結香 (非常勤講師)	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類	
2 年次・前期		3 0 時間／ 1 単位／ 1 5 回		講義 ・ 演習	
授業概要 (目的)	急性期にある患者の心身の特徴について理解し、その状況に応じた看護の役割と方法を学ぶ。				
目標	1. 呼吸機能障害をもつ患者の看護について理解する。 2. 循環機能障害をもつ患者の看護について理解する。				
担当講師	教育内容		教育方法		テキスト・参考書
1	1. 患者の特徴と看護の役割（呼吸器） 身体的、心理・社会的問題 看護の役割 2. 症状に対する看護 3. 検査、治療・処置を受ける患者の看護 4. 疾患をもつ患者の看護 ① 肺炎、気管支喘息 5. ② 慢性閉塞性肺疾患 6. ③ 自然気胸 7. ④ 肺腫瘍		講義		系統看護学講座／専門分野Ⅱ／成人看護学（2）呼吸器（医学書院）
2	1. 患者の特徴と看護の役割（循環器） 2. 症状に対する看護 3. 検査、治療・処置を受ける患者の看護 4. 疾患をもつ患者の看護 ① 虚血性心疾患 5. カテーテル治療、心臓リハビリ 6. ② 心不全 7. ③ 動脈系疾患		講義		系統看護学講座／専門分野Ⅱ／成人看護学（3）循環器（医学書院）
	15. 試験・まとめ				
成績評価の方法	試験により評価する。（講師 1：50 点、講師 2：50 点） 全講師の講義終了後、同一日に試験を実施する。				

基礎分野	専門基礎分野	専門分野		
科目名 成人看護学援助論Ⅱ		講師名	(下記参照)	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類
2年次・前期		30時間／1単位／15回		講義 ・ 演習
授業概要（目的）	手術療法、化学療法、放射線療法を受ける患者の看護について理解する。			
目標	1. 血液・造血器疾患をもつ患者の看護について理解する。 2. 消化器疾患をもつ患者の看護について理解する。 3. 周手術期における看護について理解する。			
担当講師（敬称略）	教育内容	教育方法	テキスト・参考書	
①柏崎沙織	1. 患者の特徴と看護の役割 （血液・造血器） 2. 主要症状を有する患者の看護	講義	「教育内容1～5」系統看護学講座／専門分野Ⅱ／成人看護学（4）血液・造血器(医学書院) 「教育内容4」系統看護学講座／別巻／臨床放射線医学(医学書院) 「教育内容5」系統看護学講座／別巻／がん看護学（医学書院）	
②内城正子	3. 造血器腫瘍患者の看護 ①がん化学療法と看護			
③似内美紀	4. ②放射線療法と看護			
④大平育子	5. ③造血幹細胞移植と看護			
⑤榊原綾奈	1. 患者の特徴と看護の役割（消化器） 2. 症状に対する看護 検査、治療を受ける患者の看護	講義 演習 「胃がん術後の食事指導」 「ストーマケア」 「術後ケア」	系統看護学講座／専門分野Ⅱ／成人看護学（5）消化器（医学書院） 系統看護学講座／別巻／臨床外科看護総論（医学書院） 系統看護学講座／別巻／臨床外科看護各論（医学書院）	
⑥松岡淳子	3. 消化器疾患患者の看護 ①食道、胃疾患 4. ②腸・腹膜疾患			
⑦田中美保子	5. ③肝臓、胆嚢疾患			
⑧遠藤 満	6. 手術療法を受ける患者の特徴と看護の役割 7. 周手術期の看護			
⑨熊谷久美	8. 演習「ストーマケア」「術後ケア」 9. 演習「周手術期看護」事例展開			
	試験（1h）・まとめ（1h）			
成績評価の方法	試験により評価する。（配点：講師①14点 講師②7点 講師③7点 講師④7点 講師⑤14点 講師⑥14点 講師⑦7点 講師⑧14点 講師⑨16点） 全講師の講義終了後、同一日に試験を実施する。			

基礎分野	専門基礎分野	専門分野		
科目名 成人看護学援助論Ⅲ		講師名	(下記参照)	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類
2年次・前期		30時間／1単位／15回		講義・演習
授業概要 (目的)	慢性疾患等生涯にわたり健康障害のコントロールを必要とする対象及び家族の特徴を知り、その状況に応じた看護の役割と方法を学ぶ。			
目標	1. 内分泌・代謝疾患をもつ患者の看護について理解する。 2. 成人の特徴を踏まえセルフマネジメントと自己効力感を高める援助を理解する。 3. アレルギー・膠原病・感染症の患者の看護について理解する。			
担当講師(敬称略)	教育内容	教育方法	テキスト・参考書	
①高橋雅代	1. 患者の特徴と看護の役割 (内分泌・代謝)	講義	系統看護学講座／ 専門分野Ⅱ／成人看護学 (6) 内分泌・代謝 (医学書院)	
②三浦穂乃香	2. 内分泌疾患の検査・治療を受ける患者の看護	演習 「事例展開」		
③君成田由喜	3. 内分泌疾患患者の看護 ①バセドウ病			
①高橋雅代	4. 代謝疾患患者の看護 ①糖尿病の治療に伴う看護			
④佐々木美知子	5. ②セルフマネジメント諸理論 6. ③セルフマネジメント事例			
②三浦穂乃香	7. ④脂質異常症 尿酸代謝異常			
⑤鈴木美知江	1. 患者の特徴と看護の役割 (アレルギー膠原病感染症) 2. アレルギー疾患患者の看護 症状、検査・治療における看護	講義	系統看護学講座／ 専門分野Ⅱ／成人看護学 (11) アレルギー膠原病感染症 (医学書院)	
⑥石川拓弥	3. 気管支喘息、アナフィラキシー患者の看護			
⑦伊藤知	4. 膠原病疾患患者の看護 症状、検査・治療における看護 5. 関節リウマチ、SLE 患者の看護			
⑧菊地努	6. 感染症患者の看護 症状、検査・治療における看護 7. HIV/AIDS 患者、敗血症患者の看護			
	試験 (1h)・まとめ (1h)			
成績評価の方法	試験により評価する。(配点：講師①15点 講師②14点 講師③7点 講師④14点 講師⑤15点 講師⑥7点 講師⑦14点 講師⑧14点) 全講師の講義終了後、同一日に試験を実施する。			

基礎分野	専門基礎分野	専門分野			
科目名 成人看護学援助論Ⅳ		講師名 (敬称略)	1	佐藤 宏之 (非常勤講師)	
			2	竹村 昌子 (非常勤講師)	
			3	對馬 牧子 (非常勤講師)	
			4	高橋 健 (非常勤講師)	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類	
2 年次・前期		3 0 時間／ 1 単位／ 1 5 回		講義 ・ 演習	
授業概要 (目的)	健康障害により日常生活が規制され、生活行動に障害をもつ対象の看護について リハビリテーションを含めて学ぶ。				
目標	1. 脳神経疾患を持つ患者の看護について理解する。 2. セルフケア再獲得を必要とする成人への看護について理解する。 3. 運動器疾患を持つ患者の看護について理解する。				
担当講師	教育内容		教育方法	テキスト・参考書	
1	1. リハビリテーション看護概論 2. リハビリテーション看護の方法 3. 患者の特徴と看護の役割 (脳神経)		講義	系統看護学講座／専門分野Ⅱ／成人看護学 (7) 脳・神経 (医学書院) 系統看護学講座／別巻／リハビリテーション看護 (医学書院)	
3	4. 観察とアセスメント 意識障害、注意・記憶障害 他 5. 疾患をもつ患者の看護 ①脳血管障害のある患者の看護 6. ②リハビリテーション看護				
2	7. ③セルフケアの再獲得と自立				
4	1. 患者の特徴と看護の役割 (運動器) 2. 観察とアセスメント 四肢長、筋周径の測定、関節可動域、ADL、MMT 良肢位 等 3. 症状に対する看護 4. 検査を受ける患者の看護 5. 手術を受ける患者の看護 6. 疾患をもつ患者の看護 ①腰椎椎間板ヘルニア 7. ②脊髄損傷患者の看護		講義	系統看護学講座／専門分野Ⅱ／成人看護学 (10) 運動器 (医学書院)	
	15. 試験・まとめ				
成績評価 の方法	試験、レポートによる総合評価とする。(講師 1・2・3 - 50 点、講師 4 - 50 点) 試験は全講師の講義終了後、同一日に実施する。				

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 成人看護学援助論Ⅴ		講師名 大杉 智子（非常勤講師）	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
2 年次・後期	1 5 時間／ 1 単位／ 8 回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	終末期にある対象及び家族のニーズを知り、その状況に応じた看護の役割と方法について学ぶ。		
目標	1. 緩和ケアの現状から、終末期にある患者、家族のニーズが理解できる。 2. 緩和ケアの実際が理解できる。 3. 緩和ケアにおける看護師の役割が理解できる。		
授業内容	教育内容	教育方法	
	1. 緩和ケアの現状とチーム医療 2. 緩和ケアにおける倫理的課題と意思決定支援 3. 緩和ケアにおける看護介入 身体的ケア 4. 精神的ケア、社会的ケア、スピリチュアルケア 5. 緩和ケアにおける家族ケア 看取りのケア グリーフケア 6. 腎・泌尿器疾患をもつ患者の終末期看護 腎不全、前立腺がん 7. 女性生殖器疾患をもつ患者の終末期看護 乳がん、子宮がん 8. 試験	講義	
成績評価の方法 試験により評価する。		テキスト・参考書 系統看護学講座／専門分野Ⅱ／成人看護学（8） 腎・泌尿器（医学書院） 系統看護学講座／専門分野Ⅱ／成人看護学（9） 女性生殖器（医学書院） 系統看護学講座／別巻／緩和ケア（医学書院）	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 成人看護学実習		
	年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数
成人看護学実習Ⅰ	2年次・後期	90時間／2単位
成人看護学実習Ⅱ	2年次・後期	90時間／1単位
成人看護学実習Ⅲ	3年次前期～後期	90時間／2単位
授業概要 (目的)	成人期にある対象の理解と、成人看護の目的と役割が理解できる。また、成人期の健康に影響を及ぼす因子について理解し、健康の保持、増進や疾病予防のための看護、成人期の保健動向等を概括的に理解する。	
成人看護学実習Ⅰ 目標	1. 成人期の特徴をふまえ、慢性期にある対象者を総合的にとらえることができる。 2. 慢性期にある対象者の健康上の課題や個別性に応じた看護を計画・実施・評価できる。 3. 保健医療福祉との連携・協働の中で、チームにおける看護師の役割を認識する	
成人看護学実習Ⅱ 目標	1. 急性期にある対象者を総合的に理解し、健康上の課題をとらえることができる。 2. 急性期および個別性に応じた看護を計画・実施・評価できる。 3. 保健医療福祉との連携・協働を通して、チームにおける看護師の役割を理解できる。	
成人看護学援助論Ⅲ 目標	1. 終末期にある対象者を総合的に理解し、健康上の課題をとらえることができる。 2. 終末期および個別性に応じた看護を計画・実施・評価できる。 3. 保健医療福祉との連携・協働を通して、チームにおける看護師の役割を理解できる	
成人看護学実習Ⅰ 教育内容	1. 患者の健康障害の把握 2. 健康障害が患者の身体面・精神面・社会面へ及ぼしている影響の把握 3. 生活行動・自己管理への援助 4. 検査・治療・処置の援助 5. 情報収集、情報の分類と整理、分析 6. 看護問題の明確化 7. 看護問題の抽出（顕在する問題と潜在する問題、優先順位） 8. 看護目標の設定 9. 看護計画の立案（5W1H）	

	10. 看護計画の実施 11. 看護計画実施後の患者の反応と状態の経時的把握 12. 看護計画の評価と修正 13. 看護要約の作成 14. 看護チームの連携 15. 多職種、他部門への連絡・報告 16. 退院調整、継続看護、各種サービスの活用
成人看護学実習Ⅱ 教育内容	1. 入院して間もない患者に関する情報収集 2. 検査・治療・処置の援助 3. 患者の身体的・精神的苦痛を緩和するための援助 4－1. 周手術期に関する看護 4－2. 化学療法に関する看護 4－3. 放射線治療に関する看護 5. 患者に関わる多職種の役割 6. 多職種、他部門への連絡・報告
成人看護学実習Ⅲ 教育内容	1. 医師からの説明内容（病名、現在の状態、今後の治療方針、予後等） 2. 患者・家族の意思、希望、同意 3. 死に至る心理過程 4. 家族・本人の意思、希望、患者の権利、家族の権利 5. 患者に関するアセスメント、指標に基づく優先順位の決定 6. 各検査・治療・処置の目的・内容・方法、留意点、患者の身体的苦痛 7. 患者の身体的苦痛・精神的苦痛を緩和するための援助 8. 日常生活への患者の思い、傾聴、日常生活の援助 9. 生活行動の自立度を踏まえた援助 10. 共感、支持的態度での傾聴 11. 家族への配慮 12. 死後の処置 13. 患者に関わる多職種の役割 14. 患者・家族に必要な社会資源の選択
成績評価の方法	成人看護学実習評価表による指導者評価・教員評価の総合評価

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 老年看護学概論		講師名（敬称略） 似内 三奈子（専任教員）	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
1 年次・後期	30 時間／1 単位／15 回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	加齢による身体的、心理・社会的変化を理解し、老年期にある人々のライフスタイル、高齢者に対する保健、医療、福祉の体制への理解を深め、老年看護の役割、看護活動の場について学ぶ。		
目標	1. 加齢による身体的、心理・社会的変化を理解する。 2. 高齢者を取り巻く社会の動向と保健医療福祉制度について理解する。 3. 老年看護の役割と機能、看護活動の場を理解する。		
授業内容	教育内容		教育方法
	1. 高齢者とは 2. 老年期を生きる人々の特徴 老年期とは 老年期の発達段階 3. 加齢変化と身体的特徴①（演習含む） 4. 加齢変化と身体的特徴② 5. 加齢変化とフィジカルアセスメント 6. 加齢変化と心理・社会的特徴（演習含む） 7. 超高齢社会の統計的輪郭 8. 高齢社会における保健医療福祉の動向 9. 高齢社会における権利擁護 倫理的課題① 10. 高齢社会における権利擁護 倫理的課題② 11. 老年看護の成り立ち 12. 老年看護の役割 老年看護の特徴 13. 理論・概念の活用 14. 老年看護における看護師の役割 看護の目標 15. 試験・まとめ		講義 演習 「地域で生活する高齢者とのふれあい体験」「高齢者疑似体験」
成績評価の方法 試験、レポートによる総合評価とする。		テキスト・参考書 系統看護学講座／専門分野Ⅱ／老年看護学（医学書院） 系統看護学講座／専門分野Ⅱ／老年看護 病態・疾病論（医学書院） 国民衛生の動向（厚生統計協会）	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野		
科目名 老年看護学援助論Ⅰ		講師名 (敬称略)	1	清水 国子（非常勤講師）
			2	田村ゆみえ（非常勤講師）
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類
2年次・前期		15時間／1単位／8回		講義 ・ 演習
授業概要 (目的)	加齢に伴う身体的、精神的機能の変化が、老年期にある対象の疾病の発症やQOLに及ぼす影響を理解し、特性を踏まえた看護援助の方法について学ぶ。			
目標	1. 高齢者によくみられる身体症状とアセスメントおよび看護の要点を理解する。 2. 高齢者の生活機能を整えるための看護援助の方法を理解する。 3. 高齢者の終末期医療、看護について理解する。			
講師	授業内容		教育方法	
1	1. 高齢者の生活機能を整える看護 基本動作、転倒、廃用症候群のアセスメント 2. 高齢者の生活機能を整える看護 食事・食生活、排泄の援助 3. 高齢者の生活機能を整える看護 清潔、生活リズムの援助、セクシュアリティ コミュニケーション、社会参加 4. 演習 「自動他動運動」「移動」「褥瘡予防(体位保持含)」 「口腔ケア・義歯の取扱い」		講義 演習	
2	5. 高齢者によくみられる身体症状とアセスメント 発熱、痛み、掻痒、脱水 6. 高齢者によくみられる身体症状とアセスメント 嘔吐、浮腫、倦怠感、褥瘡 7. エンドオブライフケア 8. 試験		講義	
成績評価の方法 試験・レポートによる総合評価とする。 全講師が講義終了後、同一日に試験を行う。 (講師1：60点、講師2：40点)			テキスト・参考書 系統看護学講座／専門分野Ⅱ／老年看護学（医学書院）	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 老年看護学援助論Ⅱ		講師名（敬称略） 杉ノ下恵子（非常勤講師）	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
2年次・前期	30時間／1単位／15回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	老年期に特有な健康障害を理解し、治療方法とともに疾病や障害を持つ人々に対する看護の方法と、予防を重視した看護の基本について学ぶ。		
目標	1. 高齢者に特有な健康障害とその治療について理解する。 2. 健康障害をもつ高齢者に対する看護の方法を理解する。		
授業内容	教育内容		教育方法
	1. 老年症候群 2. 高齢者の疾患の特徴 ①認知症 3. ②精神・神経疾患 4. ③循環器系、呼吸器系の疾患 5. ④消化器、内分泌系の疾患 6. ⑤腎泌尿器、運動器系の疾患 7. 治療を必要とする高齢者の看護 検査。薬物、手術 8. 入院治療を受ける高齢者の看護 9. 疾患を持つ高齢者への看護 ①脳卒中 10. ②心不全 11. ③肺炎 12. ④大腿骨頸部骨折 13. 認知機能障害のある高齢者看護 うつ、せん妄 14. 認知症 15. 試験・まとめ		講義
成績評価の方法 試験により評価する。		テキスト・参考書 系統看護学講座／専門分野Ⅱ／老年看護学（医学書院） 系統看護学講座／専門分野Ⅱ／老年看護 病態・疾病論（医学書院）	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野		
科目名 老年看護学援助論Ⅲ		講師名	1	佐藤 美佳子（非常勤講師）
		（敬称略）	2	似内 三奈子（専任教員）
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類
2年次・前期		30時間／1単位／15回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	老年期の健康について考え、加齢による身体的、心理・社会的変化を理解し、老年期の人々の生活に焦点を当てた予防を含めた看護の方法を学ぶ。			
目標	1. 生活・療養の場の特徴が理解できる。 2. 生活・療養の場に応じた看護の役割が理解できる。 3. 高齢者の特徴を踏まえ、生活機能の視点から看護過程の展開方法が理解できる。			
担当講師	教育内容		教育方法	テキスト・参考書
1	1. 保健医療福祉施設における看護 2. リハビリテーションを担う医療施設の特徴と看護 3. 療養生活を支える保健医療福祉施設の特徴と看護 4. 多職種連携と継続看護の実際 5. 介護を必要とする高齢者を含む家族への看護 6. 病院・施設におけるリスクマネジメント		講義	系統看護学講座／専門分野Ⅱ／老年看護学（医学書院）
2	1. 高齢者の特徴をいかした看護過程の考え方 2. 看護過程の展開方法 3. 事例展開① 大腿骨頸部骨折 4. 〃 5. 〃 6. 事例展開② 認知症 7. 〃 8. 〃		講義 事例演習	系統看護学講座／専門分野Ⅱ／老年看護学（医学書院） 系統看護学講座／専門分野Ⅱ／老年看護病態・疾患論（医学書院）
	15. 試験・まとめ			
成績評価の方法	試験、レポートによる総合評価とする。 （講師1：50点、講師2：50点） 全講師が講義終了後、同一日に試験を行う。			

基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 老年看護学実習		
	年次・開講時期	時間数／単位数
老年看護学実習Ⅰ	2年次・後期	90時間／2単位
老年看護学実習Ⅱ	3年次・前期～後期	90時間／2単位
授業概要 (目的)	老年期にある対象の特徴を理解し、対象者に応じた看護の展開ができる	
老年看護学実習Ⅰ 目標	1. 老年期の特徴および発達課題が理解できる。 2. 加齢に伴う健康上の問題が理解できる。 3. 生活の場について理解し、対象者に応じた看護の実践ができる。 4. 保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割と連携を理解し、療養生活を送る対象者および家族の社会資源活用の実践が理解できる。 5. 対象者の生活史や価値観を理解し、尊重した態度がとれる。	
老年看護学実習Ⅱ 目標	1. 老年期の特徴および発達課題が理解できる。 2. コミュニケーション技術を用いて、対象者および家族と円滑な人間関係を築くことができる。 3. 加齢変化と健康問題の関連について理解し、対象者に応じた看護過程が展開できる。 4. 家族支援の必要性を理解し、対象者のサポートシステムを考えることができる。 5. 保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割と連携について理解できる。 6. 老年看護の役割を考察し、自己の老年看護観を明らかにすることができる。	
老年看護学実習Ⅰ 教育内容	病院・老人保健施設 1. 身体的特徴、精神的特徴、社会的特徴 2. 老年期の発達課題 3. 加齢変化と疾患の関連 4. 対象者の現在の症状、治療、経過 5. 療養病床での一日の過ごし方 6. 生活上の問題把握 7. 療養病床の概要 8. 看護計画（ケアプラン）の実践 9. 日常生活援助（援助の根拠、対象者に応じた留意点・工夫点） 10. 保健・医療・福祉の連携	

	11. 対象者にかかわる多職種の役割 12. 看護師の役割と責任 13. 多職種との連携 14. 退院調整と社会資源の活用 15. 対象の特徴を考えたコミュニケーション 16. 言葉遣い、態度、傾聴と受容 17. 対象者の個人史の理解
老年看護学実習Ⅱ 教育内容	1. 身体的特徴、精神的特徴、社会的特徴 2. 老年期の発達課題 3. 対象の特徴を考えたコミュニケーション 4. 言葉遣い、態度、傾聴と受容、対象者の個人史の理解 5. 疾患の病態生理、主要症状、検査、診断、治療 6. 対象者の現在の症状、治療、経過 7. 老化と疾患の関連 8. 食習慣・運動習慣・社会生活習慣との関連 9. 入院前の生活習慣・環境 10. 現在の生活リズム・環境 11. 看護過程展開の実施：情報収集・情報の整理（ヘンダーソンの基本的看護の構成要素）、アセスメント、看護問題の明確化、計画立案、計画の実施、実施した看護の評価・修正 12. 対象者に応じた援助の実施 13. 家族関係の客観的理解、家族問題の把握と評価、家族支援の展開 14. 保健・医療・福祉の連携 15. 対象者にかかわる多職種の役割 16. 看護師の役割と責任 17. 多職種との連携 18. 自立支援、機能の発揮・拡大、自尊心の保護
成績評価	老年看護学実習評価表による指導者評価、教員評価の総合評価

[illegible]

基礎分野	専門基礎分野	専門分野		
科目名 小児看護学援助論Ⅰ		講師名 (敬称略)	1	小西 雄（非常勤講師）
			2	伊藤 月梅（非常勤講師）
			3	佐々木 瞳（非常勤講師）
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類
2年次・前期		30時間／1単位／15回		講義 ・ 演習
授業概要 (目的)	小児期の主な疾患・障害の基礎的知識を理解し、看護援助の方法について学ぶ。			
目標	1．小児期特有の症状や疾患、治療法について理解する。 2．小児期特有の症状や疾患の小児の看護援助について理解する。			
担当講師	教育内容		教育方法	テキスト・参考書
1	1．染色体異常、新生児の疾患 2．代謝性疾患、内分泌疾患 3．免疫疾患・アレルギー性疾患、リウマチ性疾患、感染症 4．呼吸器疾患、循環器疾患 5．消化器疾患、血液・造血疾患 6．悪性新生物、腎・泌尿器および生殖器疾患 7．運動器疾患、神経疾患 8．皮膚疾患、眼疾患、耳鼻科疾患、精神疾患、事故・外傷 9．子どもの虐待と対応		講義	系統看護学講座／専門分野Ⅱ／小児看護学（1）／小児看護学概論・小児臨床看護総論(医学書院) 系統看護学講座／専門分野Ⅱ／小児看護学（2）／小児臨床看護各論(医学書院)
2	1．染色体異常と看護、新生児の看護 循環器疾患と看護 2．消化器疾患と看護 血液・造血疾患と看護		講義	
3	1．代謝性疾患、内分泌疾患と看護 2．アレルギー性疾患・感染症と看護 呼吸器疾患と看護 3．腎・泌尿器および生殖器疾患と看護、 神経疾患と看護、悪性新生物と看護		講義	
	15. 試験・まとめ			
成績評価の方法	試験により評価する。(講師1：60点、講師2：20点、講師3：20点) 全講師の講義終了後、同一日に試験を実施する。			

基礎分野	専門基礎分野	専門分野			
科目名 小児看護学援助論Ⅱ		講師名	1	菊池 美香（専任教員）	
			2	伊藤 嘉子（専任教員）	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類	
2 年次・前期		3 0 時間／ 1 単位／ 1 5 回		講義 ・ 演習	
授業概要 （目的）	健康障害や入院が小児や家族に及ぼす影響について理解するとともに、発達段階や病気に適した看護が行えるための知識・技術を学ぶ				
目標	1．健康障害や入院が小児や家族に及ぼす影響について学ぶ。 2．小児のアセスメントに必要な技術と症状に対応する看護を学ぶ。 3．検査・処置を受ける子どもの看護について学ぶ。				
担当講師	教育内容		教育方法	テキスト・参考書	
1	1．病気と障害を持つ子どもと家族の看護 ①病気・障害が子どもと家族に与える影響 ②子どもの健康問題と看護 2．子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 ①入院中の子どもと家族の看護 ②外来における子どもと家族の看護 ③在宅療養中の子どもと家族の看護 ④災害時の子どもと家族の看護 3．子どもにおける疾病の経過と看護 ①慢性期・急性期にある子どもと家族の看護 ②周手術期の子どもと家族の看護 ③終末期の子どもと家族の看護 4～5．症状を示す子どもの看護 6～7．検査・処置を受ける子どもの看護 8．障害のある子どもと家族の看護 9．子どもの虐待と看護		講義	系統看護学講座／専門分野Ⅱ／小児看護学（1）／小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）	
			講義		
2	1．子どものアセスメント 2．子どものアセスメント 演習「身体計測」「バイタルサイン」 3．フィジカルアセスメント 4～5．プレパレーション、心肺蘇生法		演習		
	15. 試験・まとめ				
成績評価の方法	試験、レポートにより評価する。（講師1：70点、講師2：30点） 全講師の講義終了後、同一日に試験を行う。				

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 小児看護学援助論Ⅲ		講師名 菊池 美香（専任教員）	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
2 年次・前期	1 5 時間／ 1 単位／ 8 回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	事例をふまえ看護を展開することにより、小児看護学で学んだ知識の統合を図る。		
目標	1. 小児患者の紙上事例について看護に必要な情報収集、アセスメントについて理解する。 2. 小児患者の紙上事例について成長・発達を踏まえた目標設定を理解する。 3. 小児患者の紙上事例について中・長期的目標の関連性を踏まえ、看護計画の立案、実施、評価を理解する。		
授業内容	教育内容		教育方法
	1. 小児看護における看護の展開について 2. 紙上事例による看護の展開① 必要な情報収集 3. 紙上事例による看護の展開② アセスメントの考え方 4. 紙上事例による看護の展開③ アセスメントの考え方 5. 紙上事例による看護の展開④ 必要な看護の視点・方向性 6. 紙上事例による看護の展開⑤ 看護計画の立案 7. 紙上事例による看護の展開⑥ 事例のまとめ 8. 試験		講義 演習 事例 急性胃腸炎 （生後 7 か月 女児）
成績評価の方法 試験、レポートにより評価する。		テキスト・参考書 系統看護学講座／専門分野Ⅱ／小児看護学（1）／小児看護学概論・小児臨床看護総論(医学書院) 系統看護学講座／専門分野Ⅱ／小児看護学（2）／小児臨床看護各論(医学書院)	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 小児看護学実習		
	年次・開講時期	時間数／単位数
小児看護学実習Ⅰ	2年次・後期	45時間／1単位
小児看護学実習Ⅱ	3年次・前期～後期	45時間／1単位
授業概要 (目的)	小児各期の発達段階の特徴と健康な生活を理解し、対象者の健康段階に応じた看護を実践する能力を養う。	
小児看護学実習Ⅰ 目標	1. 小児の特徴および健康問題が理解できる。 2. 健康問題や入院が対象者とその家族に及ぼす影響を理解できる。 3. 成長発達・個別性を考慮して健康段階・健康問題に応じた看護が展開できる。 4. 健康障害をもつ小児と家族の相互関係を理解し、家族への援助の必要性を考えられる。 5. 小児看護の役割を理解し、子どもやその家族を尊重した態度で接することができる。	
小児看護学実習Ⅱ 目標	1. 健康な子どもの成長発達過程と成長発達の個別性について理解できる。 2. 子どもの発達段階と個別性に合わせた日常生活援助が実施できる。 3. 子どもをとりまく家族・地域・社会のサポートや支援の実際を知る。 4. 健康な子どもと家族への必要な支援について考えることができる。	
小児看護学実習Ⅰ 教育内容	病院実習 1. 身体の成長・発達段階の観察と評価 2. 発達の観察と評価（生理機能、精神的発達、運動機能） 3. 基本的生活習慣の獲得状況と評価 4. 成育歴・家族状況の把握と評価 5. 疾患の病態生理の理解、症状の観察 6. 検査・治療・処置の把握と理解 7. 健康段階・症状の把握と理解 8. 入院前・後の日常生活の変化の把握と理解 9. 入院による影響の観察と評価（母親への依存度、家族・兄弟との関係、日常生活行動への影響） 10. アセスメントに基づく看護問題の特定、計画立案、実施した看護の評価・修正 11. バイタルサイン測定、身体測定 12. 症状に対する看護	

	13. 治療（手術含）に伴う看護 14. 日常生活援助（食事・排泄・清潔・更衣・睡眠） 15. 病状に応じた遊び・活動の工夫 16. 学習方法の援助 17. 発達に応じて起こりうる事故の予測と安全を守る援助 18. 発達と病状に応じた子どもを尊重した姿勢でのかかわり 19. 家族へのかかわり（養育に関する親の考え方や心配・不安への配慮） 20. 患児の入院による家族への影響の観察と評価、家族に対する必要な看護 21. 検査の見学・一部援助 22. 乳児健診・予防接種の実際
小児看護学実習Ⅱ 教育内容	保育園実習 1. 小児各期の成長・発達の特徴 2. 遊びへのかかわり 3. コミュニケーション（担当クラスの園児とのかかわり、保育士のかかわり方の見学） 4. 日常生活の援助（食事、排泄、睡眠、清潔・衣服の着脱、園児同士の関係の持ち方） 5. 安全・環境（保育園の構造・設備、遊び・生活の中での危険への配慮） 6. 保育者としての態度 7. 社会的支援とその内容 8. 保育を支える多職種とその役割 9. 小児・家族への支援の実際
成績評価	小児看護学実習評価表による指導者評価、教員評価の総合評価

基礎分野		専門基礎分野		専門分野		
科目名 母性看護学概論				講師名	1	吉田 美智子（専任教員）
					2	八重樫 秀美（非常勤講師）
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数			授業の種類	
2 年次・前期		3 0 時間／ 1 単位／ 1 5 回			講義 ・ 演習	
授業概要 （目的）	母性の概念及び母性の特性や発達段階に応じた女性の健康と健康問題を通して、母性看護に必要な知識を学ぶ。					
目標	1. 母性および母性看護学の基礎となる概念を理解する。 2. 母性看護の対象となる人々の特性と対象を取り巻く社会の現状を理解する。 3. 女性のライフステージ各期の健康問題および看護を理解する。					
講師	教育内容				教育方法	
1	1. 母性看護の基盤となる概念① 母性とは 母子関係と家族発達				講義	
2	2. 母性看護の基盤となる概念② セクシャリティの発達と課題 リプロダクティブヘルス／ライツ 3. 母性看護の基盤となる概念③ ヘルスプロモーション 倫理的課題 母性看護のあり方 4. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 5. 母性看護の対象理解 6. リプロダクティブヘルスケア① 家族計画 7. リプロダクティブヘルスケア② 性感染症、HIV 感染 8. リプロダクティブヘルスケア③ 人工中絶と看護、喫煙女性の健康と看護 9. リプロダクティブヘルスケア④ DV、虐待、母子保健の国際化				講義	
1	10. 母性看護に必要な看護技術 11. 女性のライフステージ各期における看護① 12. 女性のライフステージ各期における看護② 13. 女性のライフステージ各期における看護③ 14. 女性のライフステージ各期における看護④				講義・演習 「女性のライフステージ各期の健康課題と健康教育」	
	15. 試験・まとめ					
成績評価の方法 試験、レポートによる総合評価とする。（講師 1：40 点、講師 2：60 点）全講師の講義終了後、同一日に試験実施				テキスト・参考書 系統看護学講座／専門分野Ⅱ／母性看護学 （1）母性看護学概論（医学書院）		

基礎分野	専門基礎分野	専門分野		
科目名 母性看護学援助論Ⅰ		講師名 (敬称略)	1	高見 静子（非常勤講師）
			2	伊藤 沙織（非常勤講師）
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類
2 年次・前期		1 5 時間／ 1 単位／ 8 回		講義 ・ 演習
授業概要 (目的)	正常な妊娠の経過と生理的变化を理解し、医学的な対応と管理、看護援助の方法について学ぶ。			
目標	1．妊娠期において、母体と胎児の生理的経過と適応過程を理解する。 2．対象のセルフケアと健康障害の予防や健康増進を促す看護援助を理解する。			
担当講師	教育内容		教育方法	テキスト・参考書
1	1．妊娠期における看護 妊娠期の身体特性、心理・社会的特性 2．妊娠期における看護 妊婦と家族の看護① 3．妊娠期における看護 妊婦と家族の看護② 4．演習「妊婦体験、レオポルド触診法、子宮底長・ 腹囲測定、胎児心拍数の聴取方法」		講義 演習	系統看護学講座 ／専門分野Ⅱ／ 母性看護学（1） 母性看護学概論 （医学書院） 系統看護学講座 ／専門分野Ⅱ／ 母性看護学（2） 母性看護学各論 （医学書院）
2	1．妊婦の健康査定のための情報収集 2．妊婦健康診査時の情報収集と健康アセスメント① 3．妊婦健康診査時の情報収集と健康アセスメント②		講義	
	8．試験			
成績評価 の方法	試験、レポートによる総合評価とする。（講師 1：60 点、講師 2：40 点） 全講師が講義終了後、同一日に試験を行う。			

基礎分野	専門基礎分野	専門分野			
科目名 母性看護学援助論Ⅱ		講師名 (敬称略)	1	高見 静子（非常勤講師）	
			2	伊藤 沙織（非常勤講師）	
			3	今村 栄吏子（専任教員）	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類	
2年次・前期		30時間／1単位／15回		講義 ・ 演習	
授業概要 (目的)	母性のライフサイクルにおいて、分娩期・産褥期における看護の役割と方法について理解する。あわせて母性看護に必要な看護技術を学ぶ。				
目標	1. 分娩期・産褥期にある母子に必要な看護技術を習得する。 2. 産婦と胎児、褥婦と新生児の疾病予防ならびに健康状態を高める援助技術の基本を理解する。 3. 事例を基に褥婦の看護過程を展開する。				
担当講師	教育内容		教育方法		テキスト・参考書
1	1. 分娩期における看護 分娩の経過 2. 分娩期における看護 産婦・胎児・家族のアセスメント 3. 分娩期における看護 産婦と家族の看護 4. 分娩期における看護 分娩期の看護の実際 5. 産褥期における看護 産褥経過、褥婦のアセスメント 6. 産褥期における看護 褥婦と家族の看護 7. 産褥期における看護 施設退院後の看護 8. 演習「乳房ケア・授乳指導・褥婦の観察」		講義 演習 「乳房ケア」 「授乳指導」 「褥婦の観察」		系統看護学講座 ／専門分野Ⅱ／ 母性看護学（2） 母性看護学各論 （医学書院）
2	1. 新生児の生理 新生児のアセスメント（新生児の診断） 2. 新生児のアセスメント （新生児の健康状態のアセスメント） 新生児の看護		講義		
3	1. 紙上事例による看護過程① 2. 〃 ② 3. 〃 ③ 4. 演習「沐浴」		講義 事例演習 演習 「沐浴」		
	15. 試験・まとめ				
成績評価の方法	試験、レポートによる総合評価とする。（講師1：60点、講師2：15点、講師3 25点） 全講師が講義終了後、同一日に試験を行う。				

基礎分野	専門基礎分野	専門分野			
科目名 母性看護学援助論Ⅲ		講師名 (敬称略)	1	大橋 正俊（非常勤講師）	
			2	伊藤 沙織（非常勤講師）	
			3	今村 栄吏子（専任教員）	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類	
2年次・前期		30時間／1単位／15回		講義 ・ 演習	
授業概要 (目的)	ハイリスクな状況にある妊婦・産婦・褥婦及び新生児について理解し、家族を含めた看護の役割と方法について学ぶ。				
目標	1. 妊婦、産婦、褥婦および新生児の健康障害における問題を把握する。 2. 周産期におけるハイリスクな状況にある人々に必要な看護を理解する。				
担当講師	教育内容		教育方法	テキスト・参考書	
1	1. 出生前診断、不妊 2. 妊娠の異常 3. 分娩の要素・経過 4. 分娩の異常① 5. 分娩の異常② 6. 新生児の異常 7. 産褥の異常		講義	系統看護学講座／ 専門分野Ⅱ／母性看護学(2)母性看護学各論(医学書院)	
3	1. 出生前診断を受ける人への看護 不妊夫婦の看護		講義		
2	1. ハイリスク妊婦の看護 2. 異常のある産婦の看護 3. 異常分娩時の産婦の看護 帝王切開術を受ける産婦の看護		講義		
3	2. 異常のある褥婦の看護 3. メンタルヘルスの問題を抱える母親の支援 4. 新生児期の異常と看護		講義		
	15. 試験・まとめ				
成績評価の方法	試験により評価する。(講師1：50点、講師2：20点、講師3：30点) 全講師の講義終了後、同一日に試験を行う。				

基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 母性看護学実習		
	年次・開講時期	時間数／単位数
母性看護学実習Ⅰ	2年次・後期	45時間／1単位
母性看護学実習Ⅱ	3年次・前期～後期	45時間／1単位
授業概要 (目的)	妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族を理解し、対象者に必要な看護が提供できるための基礎的能力を養う。	
母性看護学実習Ⅰ 目標	1. 妊婦・産婦・褥婦の身体的・精神的・社会的特徴および新生児の胎外生活適応過程が理解できる。 2. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の生理的な経過と母子関係が理解できる。 3. 産褥および新生児期の特徴を理解し、対象者と家族に必要な看護過程の展開がわかる。 4. 対象者をとりまく保健医療チームメンバーの役割を理解し、その連携・協働について考えることができる。	
母性看護学実習Ⅱ 目標	1. 産褥および新生児期の特徴を理解し、対象者と家族に必要な看護過程が展開できる。 2. 生活・育児指導を通し保健指導の重要性や継続看護の必要性が理解できる。 3. 地域における諸機関との連携について理解を深め、看護師の役割が理解できる。 4. 母性看護学実習を通して、自己の母性（父性）観を明らかにすることができる。	
母性看護学実習Ⅰ 教育内容	1. 妊婦の身体的特徴、精神的特徴 2. 産婦の精神的援助（不安の表出、傾聴、産婦とのコミュニケーション、不安を与えない言動、診察、観察結果のわかりやすい説明） 3. 産痛緩和法の援助 4. 産婦の日常生活の調整（栄養、排泄、効果的な腹圧のかけ方、陣痛間歇期の弛緩法） 5. 子宮内感染防止の援助 6. 産褥の生理 7. 褥婦の精神的特徴、褥婦の社会的特徴 8. 保温の援助（体温に関する新生児の生理、環境調整：室温、寝衣の調整） 9. 栄養の援助 10. 育児技術（おむつ交換・寝かせ方、沐浴・生活環境の調整、衣服の着脱、調乳、哺乳瓶の消毒）	

	11. 感染予防、事故防止 12. 妊婦の健康診断 13. 妊娠後期の精神的特徴 14. 保健指導の実際 15. 分娩経過の観察 16. 新生児期の生理的特徴(出生直後の観察、一般状態、全身状態の観察、生理的变化、哺乳力、活気、機嫌、睡眠 17. 産褥期、新生児期の看護過程の展開 (産褥期の生理的経過と観察、一般・全身状態の観察、データを分析して対象者の強みや問題を抽出する、計画立案・実施、評価 18. 保健医療チームメンバーの役割 19. チームメンバーとの連携・協働の実際 20. 退院後の母子の子育て支援 21. 保健医療福祉の連携・協働のあり方
母性看護学実習Ⅱ 教育内容	1. 産褥および新生児期の看護過程（産褥期の生理的経過と観察、一般・全身状態の観察） 2. データを分析して対象者の強みや問題を抽出する 3. 計画立案、実施、援助、評価・修正 4. 保健指導の実際 5. 母親と家族、地域サポート活動の支援 6. 産前・産後休暇、育児休暇等 7. 社会資源の活用 8. 病院と開業医の連携 9. 母子保健事業の一環である母親（両親）学級の見学 10. 産前・産後休暇、育児休暇等 11. 分娩後の産婦の看護
成績評価	母性看護学実習評価表による指導者評価、教員評価の総合評価

基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 精神看護学概論		講師名
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類
2年次・後期	30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習
授業概要 (目的)	精神保健医療の変遷を概観するとともに、各成長発達段階の課題と関連するこころの健康上の課題、精神看護の対象と特徴、患者－看護師関係の形成等について理解する。また、精神保健に関する制度の変遷を知り、精神看護の役割を学ぶ。	
目標	１．精神の健康、こころのありようをめぐる基本的事項について理解する。 ２．精神看護の機能と役割を理解する。 ３．社会のなかの精神障害のとらえかた、精神保健医療の現状と問題点を理解する。	
授業内容	教育内容	教育方法
	１．精神看護学の基本的な考え方 精神看護学における看護の役割 ２．精神の健康と障害 ３．人間の心のしくみと人格の発達 ４．心の危機とストレス ５．関係のなかの人間 ６．ケアの人間関係① ケアの前提、ケアの原則、ケアの方法 ７．ケアの人間関係② 関係をアセスメントする ８．ケアの人間関係③ プロセスレコードによる自己洞察 ９．ケアの人間関係④ 患者－看護師関係、チームダイナミクス 10．社会のなかの精神障害① 精神医療の歴史 11．社会のなかの精神障害② 精神障害と法制度 12．精神科以外での精神看護 13．リエゾン精神看護 14．看護師のメンタルヘルス 15．試験・まとめ	講義 演習 「プロセスレコード」
成績評価の方法 試験により評価する。		テキスト・参考書 系統看護学講座／専門分野Ⅱ／精神看護学（１） 精神看護の基礎（医学書院） 系統看護学講座／専門分野Ⅱ／精神看護学（２） 精神看護の展開（医学書院）

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 精神看護学援助論 I		講師名（敬称略） 橋本 誠紀（非常勤講師）	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
2 年次・後期	1 5 時間／ 1 単位／ 8 回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	主な精神の疾患・障害に関する基礎的な知識を学ぶ。ノーマライゼーションの考え方を理解する。		
目標	1. 精神障害の主な症状と状態像について理解する。 2. 精神科における診断と検査について理解する。 3. 精神科における主な疾患の治療について理解する。		
授業内容	教育内容		教育方法
	1. さまざまな精神症状① 思考の障害、感情の障害、意欲の障害 2. さまざまな精神症状② 知覚の障害、意識の障害、記憶の障害 他 3. 診断と疾病分類 4. 統合失調症① 5. 統合失調症② 6. 気分障害、神経症性障害 7. パーソナリティ障害、器質性精神障害 てんかん、知的障害、発達障害 8. 精神科での治療 薬物療法、電気けいれん療法、精神療法 他 試験		講義
成績評価の方法 試験により評価する。		テキスト・参考書 系統看護学講座／専門分野Ⅱ／精神看護学（1） 精神看護の基礎（医学書院） 系統看護学講座／専門分野Ⅱ／精神看護学（2） 精神看護の展開（医学書院）	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野			
科目名 精神看護学援助論Ⅱ		講師名 (敬称略)	1	田中 館 彩（非常勤講師）	
			2	中山 裕子（専任教員）	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類	
2 年次・後期		3 0 時間／ 1 単位／ 1 5 回		講義 ・ 演習	
授業概要 (目的)	心の健康障害の主な症状による対象の苦悩と援助方法を理解するとともに、患者の権利擁護の現状と課題について学ぶ。				
目標	1. 統合失調症の看護の実際を通して看護の役割を理解する。 2. 診察・検査・治療に伴う看護の役割について理解する。 3. 精神の障害された人の看護過程の展開が理解できる。				
担当講師	教育内容			教育方法	テキスト・参考書
1	1. 回復を支援する① 回復の意味、リカバリーのビジョン、試みと看護の視点 2. 回復を支援する② リカバリーを促す環境、グループ、方法 3. 入院治療の意味① 精神科を受診するということ 4. 入院治療の意味② 治療の器としての病院・病棟 5. 身体をケアする① 精神科における身体のケア、看護ケアの実際 6. 身体をケアする② 薬物療法に伴う身体のケア 7. 身体をケアする③ 電気けいれん療法に伴う身体のケア 8. 身体をケアする④ 身体合併症のアセスメントとケア 9. 安全をまもる① リスクマネジメントの考え方と方法 10. 安全をまもる② 緊急事態に対処する			講義	系統看護学講座／専門分野Ⅱ／精神看護学（1） 精神看護の基礎（医学書院） 系統看護学講座／専門分野Ⅱ／精神看護学（2） 精神看護の展開（医学書院）
2	1. 紙上事例による看護過程① 2. 紙上事例による看護過程② 3. 紙上事例による看護過程③ 4. 紙上事例による看護過程④			事例演習 「統合失調症」	
	15. 試験・まとめ				
成績評価の方法	試験、レポートにより評価する。（講師 1：70 点、講師 2：30 点） 全講師の講義終了後、同一日に試験を行う。				

基礎分野	専門基礎分野	専門分野			
科目名 精神看護学援助論Ⅲ		講師名 (敬称略)	1	菊地 誠（非常勤講師）	
			2	上川原 幸男（非常勤講師）	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類	
2 年次・後期		3 0 時間／ 1 単位／ 1 5 回		講義 ・ 演習	
授業概要 (目的)	精神科リハビリテーションの変遷と現状を学び、ノーマライゼーションの理念に沿って心の健康障害を持つ対象の社会復帰や自立に向けた援助を学ぶ。				
目標	1. 精神障害者が地域で生活するための看護について理解する。 2. 精神障害者居宅生活支援事業の種類と内容、おもな活動について理解する。 3. 精神障害者の権利擁護を目指すチームアプローチのあり方を理解する。				
担当講師	教育内容		教育方法	テキスト・参考書	
1	1. 地域におけるケアと支援 「器」としての地域 2. 地域で精神障害者を支援する際の原則 3. 地域生活を支えるシステムと社会資源 4. 地域におけるケアの方法と実際① ケアマネジメント、複合的な問題 5. 地域におけるケアの方法と実際② 再発の危機を乗り越える 6. 学校におけるメンタルヘルスと看護 7. 職場におけるメンタルヘルスと精神看護		講義	系統看護学講座／専門分野Ⅱ／精神看護学（2）精神看護の展開（医学書院） （参考） 系統看護学講座／別巻／精神保健福祉（医学書院）	
2	1. 人々の暮らしと精神保健福祉 2. 〃 3. 精神保健福祉の歴史 4. 地域移行支援・地域の基盤 5. 〃 6. 精神障害予防のための知識・技術 7. 特定の状況に対する精神保健福祉		講義	系統看護学講座／別巻／精神保健福祉（医学書院）	
	15. 試験・まとめ				
成績評価の方法	試験により評価する。（各 50 点） 試験は全講師の講義終了後、同一日に実施する。				

基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 精神看護学実習		
年次・開講時期		時間数／単位数
3年次・前期～後期		90時間／2単位
授業概要 (目的)	精神に障がいのある対象者を理解し、対象者に応じた看護の展開ができる。	
目標	1. 入院患者の治療的環境について理解できる。 2. 精神に障がいのある人への各治療法について理解できる。 3. 対象者の日常生活行動における自立度を把握し看護過程の展開ができる。 4. 治療的かかわりを目的としたコミュニケーションについて理解できる。 5. 対象者とのかかわりを通して自己を振り返ることができる。 6. 地域との連携について理解し、退院後の生活について考えることができる。	
教育内容	1. 病院・病棟の構造・設備 2. 各々の入院形態と手続き 3. 物品の保管・管理 4. 鍵の取り扱い、鍵の持つ意味 5. 面会、外出・外泊 6. 災害、事故発生時の対処方法 7. 保護室・抑制 8. 精神に障がいのある対象者への各治療の目的および方法 X-P、ECG、MRI、脳波、CT、パーソナリティ・性格検査、心理テスト、薬物療法、精神療法、作業療法、CBT、SST、レクリエーション療法、家族療法 9. 患者の症状や特徴をふまえながらコミュニケーション 幻覚・妄想、不安、興奮、衝動行為、対象の体験している世界、対象の行動の意味、日常生活の支援・生活指導 10. 精神に障がいのある患者へのコミュニケーションの方法 11. 治療的コミュニケーションの活用 12. 看護の展開 情報収集・情報の整理、オレム・アンダーウッドの基本的看護の構成要素（6項目）、アセスメント、看護問題の明確化、計画立案、計画の実施、実施した看護の評価・修正 13. 対象への対応の振り返りと自己の振り返り 14. 看護師としての資質の洞察 15. 精神看護への興味・関心	

	16. デイケアにおける支援の実際と看護師の役割 17. 退院後のサポートシステム デイケア・ナイトケア、精神障害者復帰施設、就労施設、社会資源、 家族会、セルフヘルプグループ
成績評価	精神看護学実習評価表による指導者評価、教員評価の総合評価

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 看護管理学		講師名 田村 ゆみえ（非常勤講師）	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
3年次・前期	15時間／1単位／7回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	病院や看護実践の場を組織的にとらえ、看護組織を運営していくために必要な組織論、リーダーシップ論、管理理論の基礎的理論等について学び、よりよい看護を提供するための人材育成、看護管理の方法と今日的な課題について理解する。		
目標	1. 看護管理に関する基礎的な知識を学ぶ。 2. 看護管理、看護サービスのマネジメントのあり方を学ぶ。 3. 看護管理、マネジメントに影響する法律・制度を理解し、看護の現状と課題・展望について学ぶ。		
授業内容	教育内容		教育方法
	1. 看護とマネジメント 看護管理学とは、看護におけるマネジメントとは 2. 看護ケアのマネジメント 患者の権利の尊重、安全管理、チーム医療、日常業務のマネジメント 3. 看護職のキャリアマネジメント 看護職のキャリア形成、看護専門職としての成長 4～5. 看護サービスのマネジメント 組織目的達成のマネジメント 看護サービス提供のしくみづくり、人材・施設・設備、物品のマネジメント 情報のマネジメント、サービスの評価 6. マネジメントに必要な知識と技術 組織とマネジメント、リーダーシップとマネジメント、組織の調整 7. 看護を取り巻く諸制度 8. 試験・まとめ		講義
成績評価の方法 試験により評価する。		テキスト・参考書 系統看護学講座／統合分野／看護の統合と実践 （1）看護管理（医学書院）	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 医療安全Ⅰ		講師名 (敬称略)	中山 裕子（専任教員）
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
1 年次・後期	1 5 時間／ 1 単位／ 8 回		講義 ・ 演習
授業概要 (目的)	安全で質の高い医療・看護実践を提供するために、医療事故の概念と予防についての基礎的知識を理解する。実際の事故事例の検討を通して事故防止対策の実際について考察する。		
目標	1．安全で質の高い看護を提供するための医療安全の基礎的知識を学ぶ。 2．チーム医療の一員として、安全を守るための役割について理解する。 3．療養上の世話における事故の発生要因を理解し、防止策を学ぶ。		
授業内容	教育内容	教育方法	
1	1．医療安全を学ぶことの意義 2～3．「療養上の世話」業務と事故防止 療養上の世話における事故のとらえ方と防止 転倒・転落防止、誤嚥事故防止 入浴中の事故防止	講義 講義、演習	
2	4～6．危険予知トレーニング ①医療事故と医療安全への取り組み ②KYT とは やってみようトレーニング ③KYT 4 ラウンド法 7．インシデント・アクシデントレポート	講義、演習 講義	
	8．試験		
成績評価の方法 試験、レポートにより評価する。		テキスト・参考書 系統看護学講座／統合分野／看護の統合と実践 （2）医療安全（医学書院） 系統別看護学講座／専門分野Ⅰ／基礎看護学（3） 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 基礎・臨床看護技術（医学書院）	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 医療安全Ⅱ		講師名 吉田 美智子（専任教員）	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
3 年次・後期	1 5 時間／ 1 単位／ 8 回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	安全で質の高い医療・看護実践を提供するために、医療事故の概念と予防についての基礎的知識を理解する。実際の事故事例の検討を通して事故防止対策の実践について考察する。		
目標	1. 安全で質の高い看護を提供するための医療安全の基礎的知識を学ぶ。 2. チーム医療の一員として、安全を守るための役割について理解する。 3. 診療の補助における事故の発生要因を理解し、防止策を学ぶ。		
授業内容	教育内容		教育方法
	1. 事故防止の考え方を学ぶ 医療事故と看護業務、看護事故の構造 看護事故防止の考え方 2～4. 「診療の補助」業務と事故防止 投与業務における事故防止 注射、輸血、内服与薬、経管栄養 医療行為の観察における事故防止 5. 業務領域を超えて共通する間違いと発生要因 6. 医療安全上のコミュニケーション、労働安全上の事故防止 7. 安全管理体制への取り組みと対策 8. 試験		講義 講義、演習 講義
成績評価の方法 試験、レポートにより評価する。		テキスト・参考書 系統看護学講座／統合分野／看護の統合と実践 （2）医療安全（医学書院） 系統別看護学講座／専門分野Ⅰ／基礎看護学（3） 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 基礎・臨床看護技術（医学書院）	

基礎分野		専門基礎分野		専門分野	
科目名 災害看護・国際看護			講師名 (敬称略)	1	及川 千香子（専任教員）
				2	下本 桂子（非常勤講師）
				3	目時 のり（非常勤講師）
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数			授業の種類
3 年次・後期		1 5 時間／ 1 単位／ 8 回			講義 ・ 演習
授業概要 (目的)		災害時の医療、看護活動の基本となる知識や災害対策および災害救護活動の方法を理解し、常に変化する状況下で多職種と協働し、被災者の状況や特性に応じた看護活動を展開するための基礎知識、技術、態度について学習する。 国際的な健康問題の現状や課題を知り、医療保健分野における看護の役割と機能、国際協力のしくみを学習する。			
目標		1．災害看護を実践できる基礎的能力を理解する。 2．国際看護における具体的な活動内容を理解し、考察できる。			
講師		教育内容			教育方法
1		1．災害看護学 災害医療、災害看護に関する基礎知識 2．災害看護学 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 被災者特性に応じた災害看護 3．災害とこころのケア。 被災者、遺族、救護者のケア			講義・演習
2		4～5．地震災害看護の実際を事例より学ぶ 救護活動の実際			
3		6～7．国際看護学 国際看護学に関連する基礎知識 国際協力と看護、国際協力の課題			
		8．試験			
成績評価の方法 試験により評価する。(講師 1・2：70 点、講師 3：30 点) 試験は全講師の講義終了後、同一日に実施する。				テキスト・参考書 系統看護学講座 統合分野／看護の統合と実践（3）災害看護学・国際看護学（医学書院）	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野		
科目名 看護研究Ⅰ			講師名 似内 三奈子（専任教員）	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類
3 年次・前期		1 5 時間／1 単位／8 回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	看護研究の手法について学び、実際の論文作成を通して、論理的思考や実践としての看護を科学的に探求する態度を修得する。			
目標	1．看護研究の意義や必要性について学び、看護研究の方法が理解できる。			
授業内容	教育内容		教育方法	テキスト・参考書
	1．看護研究の意義と目的 看護研究のテーマ 2．文献検索 3．研究デザイン① 4．研究デザイン② 5．研究計画書の書き方および作成 6．倫理的配慮、論文の書き方 7．プレゼンテーションの仕方 8．試験		講義	新版 看護のための わかりやすいケース スタディの進め方 （照林社）
成績評価の方法		試験による評価とする。		

基礎分野	専門基礎分野	専門分野		
科目名 看護研究Ⅱ			講師名 今村 栄吏子（専任教員）	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類
3年次・後期		30時間／1単位／15回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	ケースレポート作成・発表の実際を通して看護研究の基本を学ぶ。			
目標	1．研究計画書を研究的な手法を用い情報収集・分析・結果を考察できる。 2．看護研究の方法を活用し、ケースレポートをまとめることができる。 3．ケースレポート発表を通して看護研究発表の基本を学ぶ。			
授業内容	教育内容		教育方法	テキスト・参考書
	1．ケースレポート作成にあたって 2．受け持ち事例の振り返り① 3．受け持ち事例の振り返り② 4．研究計画書の作成・文献検索① 5．研究計画書の作成・文献検索② 6．ケースレポートの実際① 7．ケースレポートの実際② 8．ケースレポートの実際③ 9．ケースレポートの実際④ 10．ケースレポートの実際⑤ 11．ケースレポートの実際⑥ 12．ケースレポート発表準備 13．ケースレポート発表の実際① 14．ケースレポート発表の実際② 15．ケースレポート作成・発表の振り返り まとめ		講義 演習	新版 看護のための わかりやすいケース スタディの進め方 （照林社）
成績評価の方法		ケースレポート作成・発表の内容による総合評価とする。		

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	
科目名 臨床看護の実践 I	講師名	1	酒井 美喜子（専任教員）
		2	細川 牧子（非常勤講師）
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数		授業の種類
2 年次・前期	30 時間／1 単位／15 回		講義 ・ 演習
授業概要 （目的）	MCL で学ぶ 8 科の専門学校学生と「多職種と協働する力」「チームを動かす力」の基礎を实践とリフレクションを通し、各専門職講師の指導により共有し体得する。		
目標	1. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割及び多職種の役割を理解し、多職種との連携・協働について考える。 2. 地域で暮らす人々個々の特性を理解し、チームでかかわるために必要な看護専門職としての自身の課題に気づくことができる。		
担当講師	教育内容		教育方法
1	1. 在宅医療での多職種連携 2. 多職種連携について 3. 自己理解と他者理解		DVD 鑑賞 「ピア～まちをつなぐもの」 GW、発表 講義、GW
2	4～5. 多職種連携における各職種の役割 6～7. 多職種連携の実際①「地域でやりたいこと」 8～9. 多職種連携の実際②「地域で支え合っていこう」 10～11. 多職種連携の実際③「みんなで生きよう」 12～14. 多職種連携の実際④「災害時について」 15. まとめ 多職種連携における看護師の役割		講義、GW、演習 講義、GW、演習 講義、GW、演習 講義、GW、演習 講義、GW 「避難所運営ゲーム HUG」 発表
成績評価の方法 演習、GW 発表、振り返りシート、レポートによる総合評価		テキスト・参考書 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア（メディカ出版） 講師作成資料	

基礎分野	専門基礎分野	専門分野		
科目名 臨床看護の実践Ⅱ		講師名	1	今村 栄吏子
			2	岡本 法子
			3	槇 健志
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数		授業の種類
3年次・後期		45時間／2単位／23回		講義 ・ 演習
授業概要 (目的)	これまで学んだ看護技術を組み合わせて、複数の患者の状態や状況に合わせた総合的な判断や対応ができ、実際の援助が実施できる。			
目標	１．安全な看護技術としての、知識・技術・態度を実践できる。 ２．事例や状況について、実情の分析を行い、対策を考えた援助が出来る。 ３．事故防止、安全・安楽を考えた援助ができる。			
担当講師	教育内容			教育方法
	1～4．ガイダンス ①診療の補助業務に伴う事故防止 ②療養上の世話に伴う事故防止 ③病気のしくみと成り立ち ④薬のしくみとはたらき 5～6．演習準備：演習課題　①② 7．演習①　注射の準備 8．演習②　注射の実施（皮内、皮下、筋肉、静脈内） 9．演習③　輸液の準備・実施、三方活栓の使い方 10．演習④　ポンプ（シリンジ、輸液） 11～13．演習まとめ：①②③（③のみ1h） 14～15．演習準備：演習課題　③④ 16．演習⑤（酸素吸入：中央配管、ボンベ）、吸引 17．演習⑥　血糖測定 18．演習まとめ：④ 19～20．演習準備：演習課題　⑤⑥ 21～22．演習⑦⑧ 治療に伴う管理とマネジメント 複合的状況にある患者の援助 時間切迫と多重課題 23．演習まとめ：⑤			講義・小テスト 演習 演習
成績評価の方法 実技評価、課題レポート等による総合評価 (講師1：20点、講師2：20点、講師3：60点)		テキスト・参考書 システム看護学講座／基礎看護学、他、専門分野、専門基礎分野、基礎分野、別巻（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）		

基礎分野	専門基礎分野	専門分野
科目名 統合実習		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数
3 年次・後期		90 時間／2 単位
授業概要 (目的)	看護専門職者として、自己の課題を明確にし、自己研鑽する能力を養うとともに、看護チームの一員として、実務に即した看護実践に主体的に取り組み、看護実践能力を養う。	
目標	1. 複数患者に対する援助について、優先順位の考え方と時間管理の必要性を理解できる。 2. 看護チームの中でのメンバーシップおよびリーダーシップ、看護管理について理解できる。 3. 多職種との協働の中で、看護の役割を理解できる。 4. 専門職としての倫理的視点をもって判断し、看護を実践できる。 5. 自己の卒業時の看護技術の到達度を明確にできる。	
教育内容	1. 対象者の特徴を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解し、健康障害およびニーズの把握 2. 対象者の健康障害とニーズを統合し、健康上の問題を抽出 3. 対象者の自立度や障害の程度に応じた生活行動の援助 4. 複数患者の状態の把握 5. 看護ケアの優先度の判断・行動 6. 一日の自己の役割を認識したうえでの時間管理 7. 援助後の対象者の反応を捉え援助を評価 8. 看護チームの中での看護師の役割の認識 9. 看護チームの協働の実際の理解 10. ケアのマネジメントの実際の理解 11. 病棟管理者の役割の理解 12. 看護と連携が必要な多職種の種類とその役割の理解 13. 多職種と連携する中での看護師の役割の理解 14. 安全管理対策の実際の理解 点滴準備や処置などの診療の補助技術を安全性・正確性を考慮しながら実施	
成績評価の方法	統合実習評価による指導者評価・教員評価の総合評価	